

## 第6回茅ヶ崎市市民活動推進委員会（午前の部）会議録

議題	(1) 公開プレゼンテーション
日時	平成29年12月2日(土) 9時00分～12時20分
場所	市役所本庁舎4階会議室2・3
出席者氏名	草野正弘 西野義一 森祐一郎 椎野典子 秦野拓也 北川哲也 高橋準治 伊藤隆 大江守之 中川久美子 水島修一
欠席者	事務局4名(市民自治推進課) 松岡協働推進担当課長、前田課長補佐、遠藤、小坂、勝山 若林企画経営課参事、保田財政課担当主査 石田貴一 三觜健一
会議の公開・非公開	公開
傍聴者数	なし
非公開の理由	

【事務局】みなさま、おはようございます。

公開プレゼンテーションの開会に先立ちまして、本日のスケジュールをご説明いたします。お配りしております黄色の冊子の1ページをご覧ください。

本日、これより12時20分ごろまでのお時間で、平成30年度実施協働推進事業公開プレゼンテーションを開催します。

前半は、平成30年度に1年目の事業としての実施に向けてご提案いただきました行政提案型協働推進事業2事業、及び、市民提案型協働推進事業に応募いただいた1事業のプレゼンテーションを行います。

冒頭の行政提案型協働推進事業については、募集テーマを設定した担当課より、3分程度で、公募事業の趣旨をご説明いただいた後、提案団体より10分以内で提案事業についてプレゼンテーションを行っていただきます。

また、市民提案型協働推進事業についても、提案団体より10分以内でプレゼンテーションを行っていただきます。

後半10時30分からは、30年度に2年目の事業としての実施を予定する5事業について、プレゼンテーションをいただきます。こちらは、7分間でプレゼンテーションいただき、10分間の質疑応答を予定しております。

短い時間ではありますが、時間内でまとめていただきますよう、ご協力をお願いします。

プレゼンテーションは、開始から中間を過ぎたところで、1回ベルを鳴らします。

次に終了1分前に、再度ベルを鳴らします。

終了時点で、2回ベルを鳴らします。

これをもってプレゼンテーションは終了です。発表者の方は途中であっても終了してください。

その後、質疑応答を行います。

質疑につきましては、疑問点等を解消し、採否を判断する上での判断材料となります。限られた時間の中で、できるだけ疑問点等を解消するため、質問及び回答につきましては、一問一答形式でお願いします。質疑は10分以内で行います。時間になりましたらベルを鳴らします。

ベルが鳴りましたら、それをもって最後の質疑といたします。質問者・回答者ともに手短にお願いします。全事業のプレゼンテーション終了後、市民活動推進委員会による事業の評価を行います。評価会議は、非公開とさせていただきます。ご理解のほど、よろしくご申し上げます。

なお、市民活動推進委員会委員は、自らもしくはご家族が関係する団体の提案事業の評価を行うことができない仕組みとしています。

評価項目と採否の基準は、冊子の4ページのとおりです。「事業テーマ・概要」の他、「市民活動としての特性」等の項目を、各5点満点で評価し、全体の平均点が3点以上であることを目安とします。なお、「事業テーマ・概要」と「協働の効果」が3点以上であることや、団体の能力が3点以上であることが採択の必須条件です。

今後の予定につきましては、5ページにご案内しています。

平成30年度実施事業候補は、本日の結果を受けて、市長が最終的に決定します。結果につきましては、提案団体の皆さまに、12月下旬に書面でご連絡いたします。また、市ホームページ等でも一般に公表してまいります。採択された場合、提案団体の皆さまには、市のパートナーとして、事業を実施していただきます。事業の実施にあたっては、公共の担い手として、一定のルール、例えば法令遵守、説明責任、情報公開などを守っていただくこととなります。

また、事業終了後に予定されている、実施報告会の場で、事業実績と収支決算の内容を報告していただきます。

7ページ以降は、今回ご提案頂いた企画書、収支予算書を掲載しております。

なお、本日の公開プレゼンテーションの様子は、広報紙・ホームページ掲載用又は記録用として写真撮影をさせていただきます。あらかじめご承知おきください。

また、傍聴される皆さまにつきましては、傍聴の決まりに沿って傍聴いただきますようお願いいたします。

最後になりますが、会場内に、市民活動げんき基金補助事業の原資となります市民活動げんき基金の募金箱を用意しております。ご来場の皆さまにも、制度の趣旨をご理解いただき、ご協力いただければ幸いです。以上でございます。

それでは、ただいまから平成30年度実施 協働推進事業公開プレゼンテーションを始めます。

はじめに、茅ヶ崎市市民活動推進委員会の大江守之委員長よりごあいさつ申し上げます。

**【大江委員長】** 皆様、おはようございます。ただいまご紹介いただきました市民活動推進委員会委員長の大江でございます。委員を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

多様化する市民ニーズや、より効果的な行政の運営等を目指しまして、茅ヶ崎市ではこの協働推進事業というものを平成18年度から10年以上にわたって運用してまいりました。この運用に当たりましては、本日のプレゼンテーションや事業終了後の実施報告会などを通して、バージョンアップを図りながら、平成29年度までに、これまで88件推進事業を実施してまいったという実績がございます。

今年度のプレゼンテーションに関しましては、お配りした資料でございますように、来年度1年度目の事業として実施する事業の提案を3件、それから来年度2年度目の事業として実施する事業提案を5件ということで実施していただいております。この中には、中学生への学習支援といったような全国的な傾向、課題を茅ヶ崎市の地域特性を踏まえて解決しようとする事業、あるいは地域の歴史や文化をひもときながら、地元を理解して育てていくというような事業等、市が単独では実施できない事業に関する各団体の特性を生かした提案が含まれております。審査に当たりましては、事業の企画書、収支予算等、詳細について慎重に検討してまいりたいと考えております。そのため、質疑に関しましては、若干厳しめの質問をさせていただくこともございますけれども、その点ご理解いただければと思います。

それでは、きょう出席している委員をご紹介いたします。

中川久美子副委員長でございます。

草野正弘委員でございます。

西野義一委員でございます。

森祐一郎委員でございます。

椎野典子委員でございます。

秦野拓也委員でございます。

北川哲也委員でございます。

高橋準治委員でございます。

伊藤隆委員でございます。

水島修一委員でございます。

なお、本日出席している委員のほかに石田貴一委員、三觜健一委員がいらっしゃいますけれども、本日は所用のため欠席でございます。

本日は、私を含めまして11人の委員と行政から企画経営課の若林参事、それから財政課の保田担当主査の2名の職員とプレゼンテーションを聞かせていただきます。

それでは、平成30年度実施協働推進事業公開プレゼンテーションを開会いたします。

【事務局】 ありがとうございます。それでは、早速プレゼンテーションに移りたいと思います。はまかぜ菜園等管理運営事業の皆様、ご準備をお願いします。また、プレゼンテーションですが、後ろ側にも席がございます。次の団体の方は後ろの席に控えていただければと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、1事業目でございます。（仮称）茅ヶ崎公園体験学習施設「はまかぜ菜園」等管理運営事業、提案団体は半農半xを楽しむ会の皆様です。担当課は青少年課でございます。よろしくお願いいたします。

【青少年課】 皆さん、おはようございます。青少年課体験学習施設準備担当課長の仲手川です。本日はよろしくお願いいたします。

今回、（仮称）茅ヶ崎公園体験学習施設「はまかぜ菜園」等管理運営事業を行政提案型協働推進事業のテーマとしました。そこでまず最初に、現在整備を進めております体験学習施設の概要と整備の進捗状況等について述べさせていただきますと思います。

体験学習施設は、老朽化と耐震制度に大きな課題がある旧海岸青少年会館及び福祉会館を、平成20年3月に策定した公共施設整備・再編計画、平成21年11月に策定した海岸青少年会館・福祉会館複合施設再整備基本計画に基づき整備を進めています。その後、平成28年度に実施計画を取りまとめ、本年7月より建設工事に着手しました。

建設場所につきましては、市の南側に位置する茅ヶ崎公園の中の旧テニスコートの部分でございます。階数は、地下1階、地上2階、鉄筋コンクリートづくりの延床面積3200平方メートルの施設となります。施設の特徴としましては、バリアフリーを基本とし、あらゆる世代が利用しやすいユニバーサルデザインの施設としていること、グリーンネットによる環境などに配慮したつくりを取り入れていることなどが挙げられます。

今回、提案させていただくはまかぜ菜園や植栽エリアは施設の2階にあり、菜園の広さは約58平方メートルとなります。この部分になります。また防災面では、津波一時退避場所としての役割を兼ね備えており、2階と屋上を合わせて約1000人の収容が可能となります。

次に、施設の特徴・目指すものと、協働推進事業の提案理由につきましてご説明いたします。体験学習施設では茅ヶ崎公園が持つみどりや海といった風光明媚な環境や場所の特性を生かした野外体験やものづくり体験など、旧海岸青少年会館に引き続き、先駆的な青少年健全育成事業を行うとともに、高齢者、障害者の健康増進・生きがいづくりや福祉活動の支援を行ってまいります。

平成27年度に解体しました旧海岸青少年会館の前庭にありましたはまかぜ菜園では、青少年を対象に種まき、苗植えから収穫、調理までの一連の事業の展開を行ってまいりました。今回、この事業を継続、拡充、発展させていきたいと考えております。また、市民活動団体の皆様と協働して管理・運営することにより、あらゆる世代が交流できる直接的な効果に加えて、地域の活性化などの地域社会への間接的な効果をもたらし、さまざまな相乗効果が地域社会に広がっていくことを目指します。

工事の進捗状況でございます。本年7月より建設工事に着手しております。状況は、旧テニスコートだったところが地盤改良等を行って、大分テニスコートの面影がなくなっています。工事の完成は、平成30年11月に竣工して、平成31年から開館に向けて整備を進めております。委員の皆様もぜひ一度、建設の途中の現場を視察していただければと思います。以上です。よろしくお願いいたします。

【事務局】 ありがとうございます。それでは団体様、よろしくお願ひします。

【半農半xを楽しむ会】 皆さん、おはようございます。半農半xを楽しむ会の代表を務めさせていただきます長谷と申します。よろしくお願ひいたします。本日このような機会をいただきまして、まことに感謝しております。ありがとうございます。

まず初めに自己紹介を唐突ながらさせていただきたいと思ひますけれども、半農半xを楽しむ会とありますが、半農半xはどういったものかと疑問を持たれた方もいらっしゃるかと思ひます。半分農業、半分x、これは京都にご在住の塩見直紀さんという方が1970年代につくられたようなのですけれども、半分農業をやる、つまり自給自足的に自分で畑を耕して、自分で食べるものをつくっていく、そうすることによって食べるものは得られるということでエンゲル指数が非常に下がってきますし、ものづくりをすることによって結構そこに時間を費やして、なかなか遊ぶ時間が少なくなっていくことによってその分お金を消費することが少なくなっていくと。そうすることによって半分のxというのは自分の好きなこと、やりたいこと、得意なこと、それらをなりわいにして生きていく、それを少しのお金にかえて豊かに暮らしていく、簡単に言うとそんな暮らし方、ライフスタイルを意味することになります。

私も13年間会社勤めをしておりまして、ちょっと悶々とするところがありまして、本当にこのままでいいのか、人生80数年という中でちょうど半分に差しかかったところで、本当にこれでいいのかというときに大震災に遭いました。東北大震災のときに、そこで自分の中で人生の大どんでん返しというか、いつ死ぬかわからない、好きなことをやっ払いこうと心に決意して会社をやめて今の生活に至っております。その中で、本当に自分が何をしたいかというところを問ひ続けたときに、農業をやる、農業合宿という言葉が出てきたのです。その中で、自分1人で田舎暮らしをして農業をしていくことがやりたいのか、それともここの愛する茅ヶ崎で農をしながら仲間とわいわい楽しみながら暮らしていきたいのか、そう考えたときに後者のほうがすごくわくわくしたのです。その中で、ではこれをやっ払いこうということで半農半xのライフスタイルを目指して、やはりこれから人生100歳と言われる中で、非常に定年後も長くなってきている。その中で、やっぱり農業第一につながった生き方、大地に根差しながら自分の好きなことをして、豊かに長く楽しくしていこうと、そういうところを自分自身も目指しながら、周りとも共有していく、そんなことをやりたいと思ひまして、今実際に自分で農業をやりながら、半分としては料理教室をやったりとか、旅をしながらちょっとお話を聞かせていただいたりとか、自分がわくわくすることをなりわいにしながら今生活をさせていただいております。

農業のほうも、循環型ということであるべく持ち出しをしない、この畑の中で循環させながら土を豊かにして、そこから野菜を育てていく循環型の農業法をやっ払いいきます。それを早速自分の中でどんどんアウトプットをしていきたいということで、実績としましては、去年、今年と2年、香川公民館さんと茅ヶ崎市さんと一緒にということで、このような形で体験農業をやらせてもらいました。主に小学生をターゲットとしたものになるのですが、土づくりから種まき、栽培管理、収穫、料理、販売といったことで、一般的に農業がやるところを一気通貫して親子で体験していただくということも大事だと思ひまして提案します。

農業をやる中で、自分自身すごくある意味問題意識を感じておりまして、その中でも農業人口と高齢化です。非常に問題だと思ひるのが、農業人口が20~30年前までは500万人以上いらっしゃった農家の方が、今はどうかというと180万人なのです。半分以下に減っしまつていて、しかも高齢化の問題で平均年齢はお幾つでしょう。68歳なのです。年々上がつていきます。来年は69歳、翌年は70歳になる可能性が非常に高く、先細りが非常に目に見えてしまつていてという状況です。食料自給率は日

本国内でいいますと38%とされています。カロリーベースです。茅ヶ崎を見ますと、何%だと思えますか。私が聞く話によると2%と聞いております。100人中2人しか、茅ヶ崎が陸の孤島になってしまうと生きていけなくなる、極端な話ですけれどもそれぐらいの危機的状況であるかなと思います。

2020年問題は、生産農地の問題ということで、生産農地化されていたところが一気に宅地化されてしまう可能性がある。2020年、国側に返還されてしまう。そうすると、より少ない自給率が、農地がさらに減ってしまうという大きな問題を抱えてしまっています。そして、現在の農業というのは、実は環境破壊にすごく促進しております。工業であれば、出す水の汚染濃度というのが規定されていますけれども、農業というのは特に規定されていません。ノーリミットです。ですから、化学肥料の農薬等が全部川に流れてしまって、河川の汚染につながってしまって魚介類を生態系を崩したり、あと健康問題、フードマネージ、さまざま抱えているのかなと思います。

その中で解決策としてアイデア、私として、これは問題意識と解決策というところにあるのですが、まず大もとになる部分が、生産者、消費者の分断というところにあるのではないかと考えております。これは何かというと、ここ100年くらいの話だと思うのですが、生産者は生産者、消費者は消費者という形で完全に分けられてしまったのです。昔はイコールに近い状態、消費者であり生産者でもあるという状態が、ここ100年の間で分断されてしまったと。どういう問題を起こしているかということ、消費者は消費し続けるということなのです。つまり、極端な話ですけれども、地球からどんどん搾取するだけの、そういう存在になってしまっている。プラスを与えていずに搾取のみということは、どんどん地球の資源がなくなってしまう。お金を払えば何かを買える、けど自分は何も育てないということだとマイナスマイナスで、今地球はもう出すものがないよという悲鳴を上げている状況なのかなと思っております。その解決策としては、消費者が生産者にシフトしていくことなのです。それは完全に生産者になるのではなくて、お庭で木を育てたり、野菜を育てたりとか、種をまくというところから始めていただければいいと思っております。それが貸し農園でしたり、それをやりながら半農半xを楽しみながら広げていく、そのための場所というのが必要なのではないかなと思います。やはり持ち出さずに自然にも体にも優しい循環型農業というのをその中で進めていくことが大切だと思っております。

はまかぜ菜園というのは、そういう意味でも子供からお年寄りまであらゆる世代が土に触れて、自然を学ぶ機会のきっかけづくりとなる場所にしていきたいと思っております。初めての方でも気軽に農に触れる場所、多世代の交流が生まれることによって孫とおじいちゃん、おばあちゃんの関係、その中でさまざまな教育が生まれていく、そんな場所にしていきたいと思っております。結果としては、このようなことを創出していただけると考えております。

途中になりましたが、ご清聴どうもありがとうございました。

**【事務局】** ありがとうございました。それでは質疑に移ります。大江委員長よろしく申し上げます。

**【大江委員長】** それではどうぞ、ご質問のある方お願いします。どうぞ。

**【水島委員】** 初めに市の方にお伺いします。場所が非常に狭いことと、限定された場所でこういう取り組みを行っていただくのですが、一番期待しているところはどんなところがあるのかなという質問が1点と、あと、提案していただいた方については、非常に海岸に近い場所で、周辺を見てもともと農地とかそういうものがないような場所でこういう取り組みをされるということで、特に少し長期に継続していくために一番必要なものはどんなことだと思っておられるのか、その2点を教えてくださいたいと思います。

**【青少年課】** 施設が新しく建設されるということで、全く新しい施設、複合化といいながらも新し

い施設ということで、子供から高齢者の方までが集まってくれということ、今後、協働推進事業に参加することによって、農の部分で参加していただくだけではなく、施設に愛着を持っていただく、施設に水やり等に来ていただくということで、より親しみを覚えていただける、こちらのほうがまず第一歩としてうちが一番期待しているところでございます。

【半農半xを楽しむ会】 私からまずは1点、経験できる場所、体験できる場所、そういったきっかけづくりの場所が必要だと思っております。海側はなおさらそういう農地がない分、きっかけになる場所がないと認識しております。ですから、そこで経験してある程度知識を積み、ちょっと離れた北側の農地のある部分に貸し農園をお借りするとか、そういったところにも行けるといいますし、あとはそこだけで十分満足しながらリピートとして毎年通っていただける方もいらっしゃるのではないかと期待しております。

【大江委員長】 はい、どうぞ。

【椎野委員】 ありがとうございます。今お話を伺いまして、本当にいいことをやられるなと思ったのですが、お話の中に化学肥料や農薬の害が非常に大きくなりますよということで、循環型をおやりになるというお話ですね。これは非常に大事なことで、これからはやはりそういうようなことを多くの人に、市民に体験させて、そしてその施設内だけではできないことですので、おうちに帰ってプランターでも何でもいからそういうようなことで自然農法を教えてください、そして自然農法をやってくださいねということも1つ目的にあるかと思うのです。だから、事業というのは継続性があったほうがよろしいので、その辺をしっかりと、募集される方は40名くらいということで書いてございましたけれども、それだけではなく、それが輪と輪になってどんどん広がりながら広めていくということで、ぜひ頑張ってやっていただきたいなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【大江委員長】 どうぞ。

【中川副委員長】 中海岸の3丁目のスペースというのは、土曜日に市が開かれていたり、市場になりますよね、農家さんがずっと車で売りに来て、大変にぎわいがあるところで買うのを楽しみにしているのですが、1つ気になるのは、2階のスペースの50数平米の使い方なのですが、多分収穫したものの置き場ですとか、とれたものを調理する場合のスペースとか、周りとの関係が非常に大事になると思うのです。特に収穫したものを置くようなところとか、お子さんたちが土に触れてというようなときに、普通の畑とはちょっと違って2階のスペースですから、そのあたりをほかの機能とうまく調整しながら上手に使っていくということに対して、こちらの半農半xを楽しむ会のやりたいことと、それから周りのスペースとの関係を、ぜひ行政の管理されるほうも心して助けてあげて支援してあげていただきたいなと思います。海岸の近くに農ある暮らしの機能の拠点ができるというのは大変すばらしいと思いますので、ぜひ頑張っていただきたいと思います。

【大江委員長】 ほかにいかがでしょう。どうぞ。

【伊藤委員】 どうもありがとうございました。子供からお年寄りまでということですが、子供は何歳くらい、あるいはどういった方などを想定しているのでしょうか。

【半農半xを楽しむ会】 そこは話し合いし切れていないのですが、私の中では自分が2歳の子がいるのですが、日々畑の上ではだし、時によっては裸で走り回っているのですが、本当にそういう未就学のお子さんが土に触れて体験するということは、記憶にはないのですが自分の中に入っていく。年齢が上がったときにそれを思い出して農って楽しかったよねとか、そういうふうに思えるように、できる年齢は、立って歩けるような年齢のお子さんからご参加いただければいいかなとは

思っております。

【青少年課】 これについては話し合いをしていなかったのですが、私も同じような考えを持っていてほっとしているような状態です。未就学児から参加していただきたいと考えております。

【高橋委員】 ありがとうございます。一応こちら参加費を取るという形ですね。親子で参加するケースが多いと思うのですが、そういった未就学児が来た場合の費用についてはどのようにお考えですか。

【半農半xを楽しむ会】 現状この料金のプランについては具体的にまだ決めかねているのですが、今のところ未就学は無料ということで、年齢によって例えば小学生から高校生までは半額の1000円とか、そういった形で設定をこれから検討していきたいと思っております。

【秦野委員】 ありがとうございます。青少年課に質問が1つあります。今回2カ年の事業になるのですが、3年目以降自立に向けて継続運営をしていきたいということが計画書にも記載があったと思うのですが、その上で恐らく2年間の中で発展するビジョンづくりとか、サポーターの方など運営体制をきちっとつくっていくことがすごく大事になるかなと思うのですが、現時点で青少年課としてどのようなサポートをしていこうかなど、想定していることがありましたら教えてください。

【青少年課】 ありがとうございます。まず一番できることは、ある程度市というところですので、広報媒体をとにかく使って情報発信をしていきたいなと思っております。きょうの説明の中では説明し切れなかったところがあるのですが、既存のホームページも含めて、我々のほうで公式ページ、ウェブページのほうで現段階から運用しております。こちらのほうも使いながら、また長谷さんのほうでもいろいろ媒体を使われておりますので、ここの部分を大いに使ってやっていきたいなところと、今、海岸青少年会館と福祉会館と2館ございますので、この方々にも今の段階からできるだけこの事業の周知を図っていきたいなと思っております。以上でございます。

【北川委員】 今のお話にも通じるのですが、この事業を持続的にやっていくに当たりまして、年間どれくらい収益があればやっていけるのでしょうか。

【大江委員長】 質問の回答をどちらか、両方からお聞きになりたいですか。

【北川委員】 そうしましたら団体さんから。

【半農半xを楽しむ会】 大体2年目の収支計画書が参考になるかと思いますが、年間半期半期で動かしていこうかと思っているのですが、その中でトータルで大体80万円くらいあればと考えています。

【大江委員長】 ありがとうございます。それではこれで質疑を終わります。どうもありがとうございました。

【事務局】 ありがとうございます。それでは2事業目、郷土資料デジタルライブラリー推進事業について、準備をお願いします。

続きまして2事業目でございます。郷土資料デジタルライブラリー推進事業、特定非営利活動法人湘南ふじさわシニアネットの皆様と図書館の皆様でございます。よろしくをお願いします。

【図書館】 おはようございます。教育推進部図書館の小原と申します。どうぞよろしくお願いたします。それでは、郷土資料デジタルライブラリー推進事業について簡単にご説明いたします。

まず、この事業で実現したいことが2つございます。1つは、茅ヶ崎市の図書館で所蔵している貴重な資料、こちらをインターネットで公開してたくさんの方にごらんいただけるようにすることです。そしてもう1つは、図書館の資料を通じて市民の皆様にご覧いただき、地域に関するさまざまな学びを発展させるということになります。

茅ヶ崎市立図書館では、茅ヶ崎に関する貴重な郷土資料も所蔵しております。例えばこちらのスラ



イドにありますようなワンコインの絵はがきですとか、または明治末期の茅ヶ崎駅の周辺の地図、こういったものがございます。しかし、こちらは基本的に本館での閲覧のみに限られている上に、ふだんは一般の業者の方がお入りいただけない書庫に厳重に保管させていただいているため、この存在はなかなか知られていません。また、こちらをたくさん利用していただきたいのですけれども、利用するたびに劣化が進行していくということがありますので、利用と保存の両立が難しいということも課題になっております。このような資料をインターネットで公開することによって、図書館から遠い場所にお住まいの方を初め、世界中の方々にごらんいただくと、それだけではなく資料が傷むということも防ぐことができます。

通常、このような事業は業務委託で行うことが多いのですけれども、今回協働事業として提案させていただいた大きな理由が、このインターネットで公開した資料をきっかけとして図書館に愛着を持っていただけるようなイベントを企画・運営していただきたいと思ったからなのです。せっかく公開してもその存在を知られ、利用されなければ大変もったいないということになりますので、こういったことは行政が単独で行うよりも地域に根差して活動されている団体さんと一緒に取り組むことで、より郷土資料の魅力を引き出すことができ、高い成果や効果が期待できる事業であると考えております。

なお、この資料のデジタル化に当たっては、一般的なスキャン機能付きのコピー機で資料をPDF化するという程度の簡易なものを想定しています。また、このデジタル化した資料ですけれども、協働する団体さんからご提供いただきまして、協働推進事業期間が終了した後も引き続き図書館資料として活用させていただきたいと考えております。この事業の予算上限額は、1年目が166万3000円、2年目が139万6000円、そして合計が305万9000円となっております。

このでき上がったデジタルライブラリーを活用した学びの仕掛けとして、郷土や茅ヶ崎への愛着や専門的な知識を持ち合わせた市民活動団体さんならではのアイデアあふれる事業企画や運営といったものを期待しております。説明は以上です。どうぞよろしく願いいたします。

【湘南ふじさわシニアネット】 皆さん、おはようございます。湘南ふじさわシニアネットの小林と申します。よろしく願いいたします。このプロジェクトは、私たちは今、会員が100人ぐらいですけれども、とりあえずきょう参加させていただいているのは影浦さん、あとほかにもいるのですけれども、3人に限られましたので。

私どもがこのテーマに取り組んでみましょうかということをおもいつきましたのは、私の個人的な思いもあるのですが、私自身は茅ヶ崎に生まれまして、少し間があいているのですけれども40年以上茅ヶ崎に住んでいますので、非常に茅ヶ崎に愛着があるのです。それから図書館には非常に関心がありまして、後でご紹介しますがけれども図書館のプロジェクト名。それからインターネットを使うというのは私どもの団体は非常に得意な分野ですので、そういった面で私どもがどうかなということで図書館さんとも何度も打ち合わせをさせていただきました。

今の小原さんのお話を受けますと、現状の課題としては茅ヶ崎図書館の貴重な郷土資料、これを見せていただきましたけれども、地下の倉庫にたくさんあるのです。どれが何かわからないくらいたくさんあります。それから国立国会図書館の資料デジタル化基本計画も、つい先月、図書館総合展というのが横浜で毎年開かれるのですけれども、そこでも話し聞きましたけれども当然展示としては非常に優れているということです。3番目の文化につきましては、私は茅ヶ崎市の文化生涯学習プラン推進委員会の委員長を6年間務めさせていただいて、茅ヶ崎の文化を何とかしたいという思いが非常にありました。というようなことで課題として考えています。

事業目的としては、先ほど図書館のほうから説明がありましたように、郷土資料をデジタル化してインターネット上で公開するということが、資料の保存を両方両立させること。利用者がどこにいても大体同様のサービスが受けられるということ。最後の茅ヶ崎の文化を守り育て、地域におけるさまざまな学びを発展をさせていくと、これが事業目的だと思います。

それで次に行ってください。1年目の事業と2年目の事業は膨大な資料がありますので、1年や2年では済まないと思っております、基本的には同じ内容なのです。ただ違うのは、1年目にホームページの作成をしまして、2年目から運用に入りますので、それが大きな違いになっています。まずはデジタル化をする郷土資料の選定なのですけれども、これは非常に膨大にありますので一般市民の方に最初から入っていただくのは非常に難しいということで、図書館さんともいろいろ協議して、その中で候補を幾つか挙げたいと思っております。それを市民の方々に参加をしていただくワークショップで選定するというようなステップを踏みたいと思っております。

それからデータ化については私どもの力仕事でやりますけれども、ホームページの作成も行います。それで全体で、私どもは図書館の専門家ではないので、お付き合いのあります、慶應義塾大学の図書館の田村先生というのは前の図書館長ですけれども、田村先生とか池谷先生とか、いろいろほかのプロジェクトも一緒にやっていますので、このご指導を受けたいと思っております。ということで、でき上がったデジタルライブラリー化できたものをまた使ってワークショップとかシンポジウムとかを行って市民の学習の推進を行っていきたいと思っております。

2年目は次に行って、ほぼ同じです。ホームページが運営になっているところだけです。

次お願いします。それで協働の役割分担ですけれども、実はこの種の問題で非常に大事なものは、著作権の処理なのです。これは今、図書館のほうで著作権の処理は担当していただけるということで、亡くなってから50年とかそういう資料がありますけれども、その辺で、選定の中でも著作権が処理できるかどうか非常に大きな問題かと思っております。このようにきめ細かな役割分担を想定しております。

次から私どもの団体の宣伝をさせていただきたいと思っておりますけれども、私どもは実はミッションがほかの団体のようにこれをやるということではなくて、シニアの持っている知識、技術、経験を生かして地域に貢献しようということで、今全国で1000くらいですけれども、正直、藤沢、茅ヶ崎地区で初めてNPO法人に認定していただいて、茅ヶ崎市でも今まで6件の協働事業をやらせていただいております。そういうことで、協働事業の進め方についても非常によく理解しているつもりです。

それから図書館については、実は昨年度までの3年間、国立がん研究センターが主導する情報弱者向けがん情報ツールの作成と普及ということに協力させていただきまして、その中で交流会をやったり映画会をやったり、寸劇をやったりということで、その一番上に書いてありますけれども、逗子の取り組みということで市立図書館、市役所、県内、県内共通なのは私どもですけれども、県のがん診療連携協議会との連携等で、ここにも慶應義塾大学の先生方も入っていただいたので、その中で図書館とはどうあるべきかということを非常に思った次第です。

次に行きまして、それから図書館はここ数年、こんな形でボランティア活動なのですけれども、子供たちのクリスマス会でサンタクロースでコーラスを歌ったりさせていただいております、お付き合いさせていただいております。以上ですけれども、よろしく願いいたします。

**【事務局】** ありがとうございます。それでは質疑に移ります。大江委員長、よろしく願いします。

**【大江委員長】** ご質問どうぞ。

【高橋委員】 ありがとうございます。ちょっと気になった点で、茅ヶ崎図書館にある莫大な資料の選定とか、それから著作権処理の問題です。そこら辺は今後どのように進めていくのかということと、莫大な資料というところで、例えば2年たって事業が終了後、その後の展開はどうしていくのかなというのが気になりました。

【図書館】 著作権の処理に関しましては、基本的には著作権保護期間が満了しているものを対象としていきたいと思っております。先ほど小林様からお話がありましたとおり、個人の著作物の場合は死後50年、団体・無名の場合は公表後50年が過ぎた場合には保護期間が満了ということになります。国の政策でもそうなのですが、基本的に古い昔の資料、先ほどの南湖院ですとかそういったものを基本的には対象としていきたいと思っております。また行政から出した刊行物に関しましては、関係課と協議を重ねてどの資料であれば大丈夫かということできたいと思います。やはり、著作権の許諾というのは時間を要するところもあるので、かなり限られるかなと思っております。ワークショップを通じて、どうしてもこれは著作権の許諾が必要だけれども公開したいといった場合には、著作者の方にコンタクトをとって許諾の事務を進めたいと思っておりますが、基本的に公開するものに関しては保護期間の満了したものを対象としていきたいと考えております。よろしいでしょうか。

【ふじさわシニアネット】 2年たったらということなのですが、まず2年やってみて、そこから、私どもは協力する意思は十分ありますけれども、2年やってみてその結果で考えるしかないかなと思います。

【図書館】 具体的なお話はあったのですが、そのうち恐らくインターネットで公開していこうと思う、市がそこから厳選していくのかなと思っておりますので、その全てを公開しようということではないと考えております。以上です。

【大江委員長】 近い質問で聞きたいのですが、シニアネットさんの100人いらっしゃる団体のことなのですが、これまでもいろいろお話は伺っているのですが、100人いらっしゃる団体の構成員というのは、新陳代謝というのはどうなっているのでしょうか。新しく入ってくる人、引退される人みたいな、どんな新陳代謝でメンバーを維持されているか、お願いします。

【ふじさわシニアネット】 シニアが中心ですので、大体活躍できるのは平均すれば10名かなと。それで去年、新会員が14名、ことしが今まで10名ですが、ほぼ同じくらいの数の方が退任されるということで、新陳代謝はそういうことで行っております。

【大江委員長】 ありがとうございます。どうぞ。

【伊藤委員】 役所、団体さんからの説明で、始まりであるということになると思うのですが、ただ私としては全ての資料をデジタル化、あるいは公開していただきたいと思うのですが、ということはより大きな予算を獲得してこの事業を進める必要があると思うので、どの程度の予算があったらいいと思われているかということと、もう1つは、そのためにこの2年間は議会やあるいは市民の皆様にご納得していただくためのシンポジウムとかの活動がとても大事だと思うのです。そういったことについて何か工夫を今現在考えていらっしゃるならば教えていただきたいと思っております。

【図書館】 全ての資料というのは、本当に一般書も含めると50万冊ほどの資料が茅ヶ崎市にある図書館にはございますけれども、今回郷土資料というところに限定して、その中でも国立国会が持っていないような茅ヶ崎市だけのところ絞っていきますと、書庫には膨大にはあるのですが、茅ヶ崎市に限って保護期間を満了しているものになると、点数でいえば300程度と捉えております。その中のどれくらいが今回公開できるかというのは、やってみてのところではあると思うのですが、具体的な予算額というのがどこまでとはこの場ではなかなか金額を申し上げることはできない

のですが、この2年間の取り組みを通じて図書館にこんな資料があるよというのを、それこそ議会も含めて皆さんに知っていただきたいというのは、恐らく委託ではなかなかできないところで、やはり協働推進事業の強いところかなと思っておりますので、この2年間で、今まで図書館を利用したことはないけれどもこんなおもしろいものがあるのだなと思っていただける方をふやしていきたいと、理解を得ていくことがまた今後につながっていくのかなと思っております。

【大江委員長】 どうぞ。

【草野委員】 南湖院の資料がそちらにありますけれども、有形文化財に今登録を申請中だと聞いています。そのことからすると、やはり茅ヶ崎にすばらしいそういう資料があるということなので、結果的にどうなるろうとも、まずこの南湖院の資料を1年目にうまく見える形にしてほしいというのが私の希望です。

【大江委員長】 ほかはいかがでしょうか。

【北川委員】 ホームページのイメージはもうできているのでしょうか。

【ふじさわシニアネット】 実はまだそんなに詳細にはやっていないのですけれども、茅ヶ崎市の市のホームページがあって、さらに図書館のホームページがあるのです。図書館のホームページからリンクさせようと思っていますので、全くさらからつくるというか、リンク先ははっきりしていると思うので、そんなに極端に難しいものではないと思っていますけれども、まだ詳細はこれから検討するところです。

【北川委員】 ありがとうございます。スマートフォンで表示しやすくしていただけるといいなというところで質問させていただきました。ぜひ前向きに検討していただけたらと思います。

【ふじさわシニアネット】 当然私も今は40幾つホームページを運営していますが、スマートフォンで見られるものにどんどん変わっているというか、スマートフォンも限界がありまして、大きな資料を見せようとする非常に見にくいという問題がありますので、その辺は十分検討させていただきます。

【大江委員長】 ほか、どうぞ。

【伊藤委員】 そういった意味でデジタル化といったときに、映像資料ではなくてテキスト化することを一部考えていらっしゃるのかどうか。300点ということではなかなかテキスト化していないと利用が難しいことがあると思うので、それはお考えになっているのでしょうか。

【ふじさわシニアネット】 済みません、テキスト化という意味がちょっとよくわからないのですが。

【大江委員長】 要するにデジタル変換して、そのまま文字列として読めるようにするかという話です。

【ふじさわシニアネット】 今想定していますが、先ほど図書館のほうから説明がありましたけれども、図書館の持っているスキャナーで読ませて、それがPDFになると思うのですが、それで公開していこうと考えております。

【図書館】 補足です。恐らくこの対象になるものというのが、古文書みたいな文献というよりは、どちらかというとネットでぱっと見ていくような形で、こういった絵はがきであるとか地図であるとか目で見てぱっとわかるというものの資料が多くなるかなと予想しております。

【大江委員長】 あと1人。どうぞ。

【椎野委員】 多くの市民が参加できるように学習活動を行うということでございますけれども、例えばワークショップとかシンポジウムをおやりになるときに、どのような内容で多くの市民に理解をしていただけるようなことを想定されているのかお聞きしたいと思います。両方の方でお願いいたし

ます。

【大江委員長】 事例的にお願いします。どうぞ。

【ふじさわシニアネット】 ワークショップは選定した紙面によるのですけれども、最近茅ヶ崎市が70周年で人物を中心にした冊子を出しました。いずれにしても、何かテーマを決めて、それでワークショップで皆さんに広めていただこうと思っています。シンポジウムについては、少し図書館学の権威の人たちの意見を聞いて、今図書館は変わりつつあるのです。その辺で図書館を好きな人たちが図書館はこれからどうなっていくかというのがよく理解できるようなものにしたいと思っています。

【図書館】 具体的な内容は、恐らく団体さんとアイデアを出すというところが出てくると思うのですが、その場限りではなくて計画的に図書館のファンがふえていただくような、息の長い活動につながっていくような下地づくりという形での勉強会であったり、シンポジウムであったらいいなと思っています。

【大江委員長】 ありがとうございます。それでは時間となりましたのでこれで、ありがとうございます。

【事務局】 ありがとうございます。

続きまして、「下寺尾菅衙遺跡群」遺跡まちづくり事業の皆様よろしく申し上げます。

お待たせしました。続きまして「下寺尾菅衙遺跡群」遺跡まちづくり事業、提案者様は特定非営利活動法人アーバンデザインセンター・茅ヶ崎の皆様、社会教育課の皆様でございます。よろしく申し上げます。

【アーバンデザインセンター・茅ヶ崎】 皆様、おはようございます。アーバンデザインセンター・茅ヶ崎、略してUDCCと呼んでいます。UDCCの岡村と申します。よろしく申し上げます。今回、社会教育課さんとの協働事業ということで提案させていただきます。

UDCCですが、昨年2016年8月に設立いたしました。センター長、きょう来ております高見澤と私が副センター長ということでやっております。会の目標としましては、歩くまち茅ヶ崎をつくりたい、目指したいということで、歩きたくなる環境であるとか、歩きやすい環境のまちをつくっていくことを目指しております。テーマとして掲げているのが、公・民・学による連携によるまちづくりの推進ということで、そういった全国のネットワークにも加盟しながら、情報共有しながら進めています。

本事業の対象地なのですが、下寺尾菅衙遺跡群ということで皆さんご承知かもしれませんが、茅ヶ崎市の北西部に位置しておりまして、今から約1300年前の遺跡だといわれています。役所、あるいは寺の跡が複数発掘されておりまして、2015年に国の史跡に指定されております。本来、この史跡指定地、あるいはその周辺ですね、住所でいうと下寺尾、香川、みずきのあたりを対象とした事業となっております。既に史跡に指定されて、その後は保存活用計画が策定され、今まさにこの秋に建碑60周年記念事業ということで七堂伽藍跡地というのが今から60年前に建てられまして、それを記念した事業というものが行われています。非常に市として盛り上がっている状況だと思っています。我々UDCCも一部なのですが、まち歩き事業、まち歩きの企画などを提供させていただいて、この記念事業に参画しております。

そういった中で今後、下寺尾菅衙遺跡群の保存活用を進めていくという中で、我々として問題意識といいますか、課題として考えていますのは、まず文化財、史跡やまちづくりなどの多分野と連携をしていくことが大事なのではないかと思っています。もう1つは、多様な世代、あるいは多彩な人材の参画があることが重要ではないかということです。3つ目に、遺跡の現場において情報をどんどん

発信していくことが大事なのではないかと思っています。

そういった中で、まず遺跡まちづくりを進めていく上で大事なことは、プラットフォームづくりではないかと考えております。これから20年、30年、最終的な整備まで時間がかかるといわれておりますが、それに向けての第一歩を切りたいということで、行政あるいは地元、そして我々UDCCの連携体制、協力体制を築いていけないかということです。それともう1つ、そういった地域、あるいは市内部の人材だけではなくて、今まで余り興味を持っていなかった、あるいは遺跡から少し距離のあった層をファンとかサポーターとして引き入れられないかということで、若者とかIT技術者とかアーティストなどをこの遺跡整備、遺跡まちづくりに引き入れられないかということを目指していきたいと思っております。

これが事業の全体像なのですが、ちょっと字が小さくて恐縮ですが、2カ年で4つのプロジェクトを考えております。最初は2018年度、1年目ですけれども、まず遺跡まちづくりの基礎調査になります。それを踏まえてテーマ別ラウンドテーブルと書いてありますが、さまざまな人に集まっていたきたいということで、例えばIT技術者、アーティスト、あるいは地元の高校生、茅ヶ崎北陵高校の高校生とか、そういった方たちをそれぞれ集めてまず議論する場を開いていきたいと考えています。次の2019年、2年目ですが、遺跡ハッカソン。これも聞きなれない言葉かもしれませんが、ハッカソンというのは短期集中型で1つの提案をグループで考えていくというものです。よくIT業界で使われているものなのですが、これを遺跡まちづくりに置き換えまして、プロジェクト2で出てきたさまざまな主体の方に集まっていたきて、まずアイデアを考えてみようという場を提供していきたいと考えています。そういったさまざまなアイデアを踏まえて、まず情報発信の場、そして出てきた提案を少し実験する場として遺跡まちづくりウィークというものを最終的に開催したいと思っております。これが全体の構成になっています。

1年目、今申し上げたとおり遺跡まちづくりの基礎調査、そしてテーマ別ラウンドテーブルを2018年度に開催をします。具体的に遺跡まちづくり基礎調査は、まず地域の情報ですね、もちろん遺跡に関する情報もそうなのですが、現代の営みとかなりわい、そういったものを重ね合わせた地域の総合的な地域資源マップみたいなものをつくりたい、それをラウンドテーブルのほうに情報提供をしたりと、そういったことを考えております。もう1つ、遺跡まちづくり調査の2年目ですけれども、全国の遺跡まちづくりの事例調査をしたいと考えております。特にまちづくりのプロセスであるとか、こういった組織がかかわっているのか、そういった側面に着目しまして、全国のいい事例を探して具体的に現地調査をしたり、現地でかかわっている方にお話を伺って調査をやっていききたいと思っております。

続いてプロジェクト2ですが、こちらは先ほど申し上げたテーマ主体別ラウンドテーブルということで高校生、地元住民、IT技術者、アーティストを今想定しております。そういった方を集めて彼らの立場やスキルを持って史跡に対してどのようなかかわり方が可能かどうかという議論をしていきたいと考えております。この結果を参照可能なアイデア集としてまとめることで、いつでもその情報が引き出せるようにしたいと思っております。

こちらが2年目、2年目は遺跡ハッカソン、そして遺跡まちづくりウィークを実施するということです。

事業の体制なのですが、冒頭に申し上げたとおり、公・民・学の連携を我々は大事にしたいというふうに考えております。公は当然茅ヶ崎市、そして社会教育課さんです。学は、今想定しているのが首都大学東京の都市環境学部、そして民の部分が民間の企業であったり、当然地元のまちちから協議

会さんとか自治会さんというのを想定してその連携組織、そしてそれをつなぐのが我々提案団体であるUDCCではないかなと考えております。さらに三角形が書いてありますが、そのファンを広げていきたいということでさまざまな主体がこれにかかわってくる、そういう体制を今イメージしております。

今回、協働事業としてやるということなので、協働するメリットや効果はどういうことなのかということですが、まずこれから30年続く遺跡まちづくりの第1期ということで、効率的なスタートアップが協働事業によって切れるのではないかと考えております。具体的に言いますと、まず社会教育課さんは文化財保護や教育部門に対する専門的な技術、知見をお持ちです。我々UDCCはまちづくりや市民参画のスキル、引き出しをいろいろ持っています。それらが協働することで新たなまちづくりが展開できるのではないかなと考えています。もう1つは、さまざまな文化財保護とか遺跡に関する情報をUDCCのネットワークで市内外に発信していくことで、より効果的なまちづくりができるのではないかなと考えています。最後もう1つは、先ほど我々は全国のネットワークに加盟していると申し上げましたが、こういった茅ヶ崎の恐らく先進的な取り組みになるだろう、この遺跡まちづくりを広く発信をすることで、茅ヶ崎の存在を全国にPRしていくことができるのではないかなと考えております。

もう1つ、今回、学的重要性というのを主張したいと思っております。特に歴史的環境を生かしたまちづくりであるとか、そういった観光活用に関する専門的知見が重要だと思っておりますし、大学の学生も含めた人的なリソースですね、人材、ネットワークというものに期待したいと考えております。具体的には、私は首都大学東京に勤めておりまして、そこと連携したいと考えております。研究室の学生、大学院生のパワーを生かした調査研究が可能だと考えております。

以上ですが、前半、プロジェクト1の遺跡まちづくり基礎調査を進めまして、後半、晩秋から冬にかけてテーマ別ラウンドテーブルを進めて、最後に取りまとめていきたいと考えています。少し早いですが、以上で終わりたいと思います。どうもありがとうございます。

【事務局】 ありがとうございます。それでは、質疑に移ります。大江委員長よろしく願います。

【大江委員長】 どうぞ、ご質問のある方。水島さん。

【水島委員】 市のほうにお尋ねします。これは何か史跡に対しての一定の方向性を示すような資料づくりとしての位置づけとして考えておられるのか、それともまだこれから計画を立てられて進めていく中で1つの情報発信というような、そういう位置づけ程度のものであるのかを1つ教えていただきたいのと、あと団体さんが進められていく中で視察等もありますが、それについても市の考えも含まれた中でそういうものを進められていくのか、その辺を教えていただきたいと思います。

【社会教育課】 社会教育課でございます。今のご指摘の中で、今回のご提案につきましては、先ほどもありましたように、今後史跡整備の活用を進めていくに当たって、より裾野を広げていく、いろんなところに発信していく、より多様な方に参加していただくということを考えております。それを進める中で、今回のご提案がそれぞれの場面で生かされるものだと思っております。まずこちらのいただいた提案の中を、それぞれ例えば地域であったり、各団体であったり、行政であったりが、ひとつこれを進めていく上での参考にさせていただけるものと考えております。それから、市のほうとしてもこちらをやっていくに当たっては、今後の計画にどのように生かしていくかということも含めて考えていきたいと思っております。

【大江委員長】 視察については、視察のことが今質問にありましたよね。

【社会教育課】 こういった遺跡の活用を行っていくに当たって、各団体さんで一定程度遺跡の既に先進事例というのはたくさん全国にございますので、その中でどのように進められているかということ把握することは今回の事業では必要であると思っています。ただ、今実際に挙げられている2カ所というのは、最新の2カ所というふうに私のほうで見ております。最近整備された場所が、北秋田市であったり南アルプス市というものがございます。社会教育課としても視察というのは、ことしは予算がついておりませんが、例年視察に行っておりまして、例えば三重のほうでもう何年も整備されているものですか、長野の飯田市のほうに同じ群衙の整備をされている場所がございます。何カ所か整備は進んでおりますので、そういった先進事業を踏まえた中で各課題がありますので、そういったところを踏まえて事業を進めていただいたほうがいいのではないかと思いますので、視察というのは問題ないかと考えております。以上です。

【大江委員長】 中川さん、お願いします。

【中川副委員長】 収支計画書の1年目の委託費の委託先のことについて伺いたいのですが、今ご説明がありましたように首都大学東京というところに岡村さん自身が先生として、研究職として在籍されているということですが、この大学研究室への業務委託というふうなことをあえてこの収支計画書の人件費とは別に委託費として計上されているということの意味を、なぜ枠組みとしてそういうものをつくられたかということと、この大学の研究室そのものは首都大学東京の岡村研究室ということになるのでしょうか。

【大江委員長】 まずなぜ再委託が必要なのかということと、誰と誰が契約するのかを明確にしてください。

【アーバンデザインサービス・茅ヶ崎】 大学に委託するのは、方法としては内訳にあるとおり分けて業務委託という形にしなくてもいいのですけれども、あえてしたのは、先ほども申し上げたとおり公・民・学の連携でやっていきたい。公と民と学でチームをつくって遺跡まちづくりを進めていきたい。その収支の数字というのは、やはり活動の姿をあらわすものだと考えているので、そのところで大学の位置づけ、大学にある部分を担当してもらおうという姿勢をしっかりと打ち出したいといったことで業務委託とさせていただきます。

それで契約については、これは前提で、UDCCの前身組織のまち景・まち観フォーラム・茅ヶ崎が最後に行ったときに、げんき基金で業務委託という形を、同じ思いでとらせていただいたのですが、そのときには首都大学東京には地域連携センターがあるので、そこと相談しながら首都大学東京と契約いたしました。今回もUDCCとそこが契約することになると思っています。

【大江委員長】 私も大学に所属をしていたので、研究費のことはいろいろわかるのですが、地域連携センターというところがちゃんと予算を管理するということで、今大学の中の研究費の管理も非常に厳しくなっていて、ちゃんとした用途のとおりにはやらないと非常に問題が起きるという状況なのですが、それは地域連携センターのほうできちっと管理するということが保証されていると考えていいのですか。

【アーバンデザインサービス・茅ヶ崎】 そうですね。産学公連携センターというのが正式な名前なのですが、そこ会計関係のところがありまして、両方でチェックをしていただきながら使っていくことになると思います。

【大江委員長】 あと人件費なのですが、事前質問で1500円という単価はセンター長と副センター長の単価ということですね。大学職員、教員というのは裁量労働制になっていて、基本的に給料は大学からもらっているわけですね。もし自治体がきちっと任命するというのであればそれに関



する謝金が出ることはありますけれども、こういう提案型の場合、自分で提案して自分のマージン、人件費に相当するものをこれに積むというのは理解しがたいのですけれども、それはどうお考えでしょうか。

【アーバンデザインサービス・茅ヶ崎】 そこについては、業務委託にした場合はそのものの仕事というか、岡村は大学の職員としてします。そしてそれ以外の人件費、岡村と私が1500円なのですけれども、それ以外のUDCCとして活動する部分については1500円になります。ですので、もしこれを業務委託という形がふさわしくないということになって内訳をばらしていくことになると、人件費のところは岡村は今時給1500円ということにしていますが、研究者としては専門性のこともあるので、その場合には人件費のところは企画・監修というお金を岡村に7万ないし5万つけるという形になっています。その分の企画・監修という役割の部分は、業務委託のほうに持っていつているということになっております。

【大江委員長】 ほかにいかがでしょうか。伊藤さんと秦野さん。

【伊藤委員】 先ほど担当課の方から、北アルプス市や北秋田市は最新事例であっても先進事例ではないかもしれないというようなことを示唆されましたが、担当課、それからUDCCにお聞きしたいのですが、先進事例として担当課がお考えになっているところは例えばどこか。それからUDCCは、今担当課の方が必ずしも先進事例ではなくて最新事例だとおっしゃっていましたが、ほかに候補があればそれを教えていただきたいと思います。さらに、先進事例ということはどういうことが先進事例と思われるかということ、それぞれの基準、考え方を教えていただきたい。

【社会教育課】 私のほうで、北秋田市と南アルプス市に対して最新の整備事例であって先進事例としてどうかという、全然悪いという意味ではなかったのですけれども、ほかに多くありますので、どのようにご検討されているのかまた確認したいと思っているのですが、例えば茅ヶ崎市で考えているものとしましては、いかに地域の方々と活動をしているかという部分をまずは見ていったほうがいいのではないかと考えています。それは、例えば吉野ヶ里遺跡というところは観光に根差して、観光メインで整備されて活用されているという部分で、地域の人たちがどの程度かかわっているかという、ちょっと薄い部分があるのではないかと考えています。私などは、さまざまな会議であるとか講習会に出て先進事例を何件か見ている中で、ことしも1件、文化庁が開いた講習会に出たときに、淡路市の事例で非常に興味深いものがあります。それは地域の方々が寄附金を募ってガイダンス施設をつくって、寄附金を一部使っているわけですが、寄附金を募ったことによって自分たちで遺跡のところにカフェをつくって、地域の方々が土日限定なのですがカフェを運営する、そして遺跡の中にカフェを通ってから入っていただくというような、そういうまちづくりの仕方をされています。そういう地域の方々がどのくらいかかわっているかで、遺跡の活用というのは非常にかかわってくるのかなというのを最近思っております。

済みません、説明がおかしいのですけれども、要は地域の方々が余り主体的にかかわっていない整備をされた事例というのもたくさん日本の史跡の中にはあります。そういったところはただ公園になっていて、犬の散歩に使われているだけであるとか、そういうものでは学びが全くないのではないかなと考えております。ですので、実際にまだ私は北秋田市、南アルプス市の現地に行けていなくて、北秋田市は整備される前には行っていたのですけれども、整備されてからは行っていませんので、どの程度学びがそこで、UDCCさんと首都大学さんがどの程度そこで茅ヶ崎に生かせるものを手に入れられるか私もわからないのですけれども、最新の整備をされて最新の活用を現在まさしくやられている場所ではありますので、学べる部分というのは多くあるのではないかと考えています。以上です。

【大江委員長】 時間は過ぎているのですがけれども、もう1つ質問をしたいので、秦野さん、質問をお願いしますか。

【秦野委員】 平成31年度2事業年度目の遺跡まちづくりウイークについて質問させてください。収支計画書において社会実験を4回やりますと。総額250万円あるうちの約6分の1に当たる40万円を使って業務委託ということで実施されるということなのですが、社会実験4回の概要、内容だったり、実施期間だったり、少し効果の部分をもう少し詳しくお伝えいただいてもよろしいでしょうか。

【大江委員長】 時間があるので短めにお願いします。

【アーバンデザインサービス・茅ヶ崎】 これは4回ということではなくて、いろんなプログラムを考えていく中で1つの実験を4つやるということです。回数を重ねるということなので、同時に4回やると。

【大江委員長】 まだ質問があるようではございますけれども、済みません、時間が来てしまいましたのでこれで終了させていただきたいと思っております。どうもありがとうございました。

【事務局】 ありがとうございます。それでは、ここで休憩の時間とさせていただきます。再開は10時30分からとさせていただきます。

(休憩 AM①終了)

【事務局】 再開させていただきます。後半は「平成30年度に2年目として実施する事業」についてプレゼンテーションをいただきます。まず1番目に、「市制70周年茅ヶ崎市民文化会館改修工事期間を活用したメモリアル事業」、NPO法人スリーエフコミュニティサービス様、文化生涯学習課の皆様からプレゼンテーションをいただきます。よろしくをお願いします。

【文化生涯学習課】 おはようございます。それでは、「市制70周年茅ヶ崎市民文化会館改修工事期間を活用したメモリアル事業」のご説明をさせていただきます。市制施行70周年を迎えました、ことし平成29年度、茅ヶ崎市民文化会館におきましては37年に一度の大改修ということで、1年半の休館期間の間に改修工事を行うこととしております。こちらの改修工事期間、文化会館は休館となってしまのですが、こちらの休館期間を前向きに捉え、文化会館をこの期間も文化の創造拠点として、アーティストの方と一緒に何かできないかということで、昨年こちらのプレゼンでご提案させていただきました。平成29年度は壁面アートの製作、そしてメモリアルグッズの製作という2本を柱に実施をしてきたのですが、そちらのご報告と来年度の事業展開についてご説明させていただきたいと思っております。よろしくをお願いします。

【スリーエフコミュニティサービス】 こんにちは。NPOスリーエフコミュニティサービスの内田です。きょうはよろしくをお願いします。まず最初に、事業が始まる1カ月前の3月25日と26日で、市民文化会館を2日間限定のギャラリーにするという企画を立てまして、市役所さんにもすぐご協力いただいて、市の中に茅ヶ崎在住のクリエイティブアーティストがこのように絵を描いたりしました。これは動画を見たほうがおもしろいと思うので、ちょっと簡単な動画をつくったので見てみてください。このような感じで朝からアーティストたちが文化会館の壁だったりとか窓ガラスだったりとかに絵を描いたり、写真家の人たちは自分たちがふだん撮っている茅ヶ崎市の写真を壁に立てかけて2日間限定のギャラリーをやりました。これは一般公開はしなかったのですが、アーティストの友達や家族、その仲間たちは遊びに来てくれたのですが、ちょうどそのときに、目の前でさくら祭りをやっていて、ちょっと気になった一般の方から、入れないのかという問い合わせが何件あったのですが、彼らは入れないままやっていました。こんな感じで終始にぎやかに、アーティストたちが絵を描いたりしました。

文化会館の外側の仮工事の壁に張る写真の募集をしました。応募者は33名いまして、若い方で高校生から、上の方で65歳ぐらいまでの33名に応募していただきました。その中で選ばれた16名分の写真がこちらになります。茅ヶ崎というと海のイメージがどうしても強いのですけれども、それだけではなく山側のイメージもつけるように緑も多めにして、海の写真だったりとか、あとはこういう若い子供たちが遊んでいる写真だったりとか。あとこれは、茅ヶ崎で有名なレゲエアーティストのムーミンさんという方がいるのですが、ムーミンさんにもこういう形で出演していただきました。あとこちらのスケーターの写真の子たちは、2020年にスケボーがオリンピックの競技になったのですけれども、その候補者と言われている方たちです。まだ高校生です。

その次に、子供たちのワークショップとして、子供たちがカメラマンの写真とコラボして、それをアーティストのディレクターがディレクションするというワークショップを行いました。13名の子供たちに参加していただき、アーティストのディレクションのもと、こちらの2枚の写真にこのように絵を描いてもらいました。こちらは子供たちがイメージした波のイメージで自由にペイントしまして、こちらは道路なのですけれども、子供たちは山に見えたみたいなので風をイメージして、山に風というイメージでこちらは絵を描いてもらいました。

ちょっと小さいのですけれども、これができ上りの予想図のイメージです。こちらにこの事業の説明がしてありまして、こちらに先ほどの選ばれた写真と写真家の名前が小さく入っています。こちらは先ほどお見せした、子供たちとアーティストのコラボによるワークショップの作品が並んで、こちらは僕らのアーティストとクリエイターの写真とデザインのコラボの写真が並びます。

そしてメモリアルブースのほうなのですけれども、このように廃材を使っているいろいろなものをつくりました。ちょっとこちらに並んでいるのですが、文化会館の布を使ったこういうテディベアとか、こちらの椅子についていたナンバープレートを使って、一つ一つナンバーの違う限定のオリジナルキーホルダーとか、あとはこちらの廃材を使って、これはスピーカーです。iPodを差すと音が大きくなるというようなスピーカーをつくりました。

来年ですけれども、今回はいろいろなものをつくってこういう形でやったのですが、来年度も何かつくって市の1階の広場とかで、アーティストやクリエイターの人たちがギャラリーをやったりとか、文化会館1年目の事業で何が行われたかというのを説明できるような、こういうPRをできたらいいと思っています。以上です。ありがとうございます。

**【事務局】** ありがとうございます。それでは質疑に移ります。大江委員長よろしくお願いします。

**【大江委員長】** ではどうぞ。

**【高橋委員】** どうもありがとうございます。個人的には非常におもしろい事業ということでちょっと注目をしてしまっていて、役所を通るときとかによく見させてもらって、へえという感じになったのですけれども、これは文化会館の廃材を使ったメモリアルグッズの製作、販売もしたのですよね。これは具体的にどれぐらいの収益があったとかというのはいかがですか。

**【文化生涯学習課】** 済みません、こちらのほうは11月から販売を開始しておりまして、2月11日まで販売中ですので、売り上げの数字とかは販売後には公表させていただきたいと思っておるのですが、今の段階ではちょっと言えない状況です。

**【大江委員長】** どんな感じなのでしょう。どこで売っているのですか。

**【文化生涯学習課】** こちらは、ぴあ株式会社さんのホームページから見る事ができます。売り上げというより問い合わせは市役所のほうには来ておりまして、時計がすごくいいですとか、カスタマイズはできますかとか、そういった問い合わせはいただいております。

【大江委員長】 ほかはいかがでしょうか。実物はどこかで見れるのですか。

【文化生涯学習課】 実物は今現在、市役所の文化生涯学習課のほうで見られるようになっております。それとあと今後、公民館のほうに置かせていただくということを進めているところでございます。

【大江委員長】 椎野さんどうぞ。

【椎野委員】 よろしいですか。ここに中間評価というのがございますけれども、行政と団体さんとの評価の件でございますが、事業は計画どおり進捗していますかということところが両者とも3点ということですが、どの点がまだ進捗がいないのか、行き届いていない、滞ってしまったのか、ちょっとその辺を教えてくださいたいと思います。

【文化生涯学習課】 当初、仮囲い壁面アートについてももう少し完成を早く、ワークショップを9月3日に行いましたので、その後、10月、11月にはお披露目したいと考えてはいたのですが、デジタル処理ですとか応募者の方との調整ですとか、ちょっと思ったよりも完成までにハードルがあったということで、12月か1月くらいにお披露目できればと考えております。

【大江委員長】 ほかはいかがでしょうか。では中川さんどうぞ。

【中川副委員長】 まだちょっとスケジュール的に難しい時期かとは思いますが、来年度に向けての予算書とその中身なのですが、平成30年度実施協働事業の概要ということで56ページなのですが、事業の対象として市民アーティストとクリエイターとともに成長していくような、より魅力的な文化会館ということの事業を進めていきたいというふうに書いてあります。58ページの収支計画書を見ますと、事業総責任者賃金とプロダクトコーディネーターとウェブ制作とこれだけの計画書で、いまいちどのように市民に広げていくとか、その中身について余り触れられていないのが気になるのですが、どのようにお考えでしょうか。

【スリーエフコミュニティサービス】 PRの方法なのですが、今回僕らの事業に参加していただいたアーティストやクリエイターの方たちというのは、いわゆるSNSを駆使してPRしている方がすごく多いのです。今回の壁の事業に関しても、先ほどの文化会館のギャラリーに関しては、SNSでPRをしたところ、僕らのアーティストとクリエイターのフォロワーの総数を足すと約8万人ぐらいのフォロワーがいるのです。その8万人のフォロワーの方たちが、文化会館の事業を見た、いいね！はまた別途なのですが、リーチしたというふうに僕は思っていて、2年目に関してもそういうSNSを使ってPRを中心にしていきたいとは考えています。

【大江委員長】 ほかはいかがでしょうか。では伊藤さん。

【伊藤委員】 事前質問の4番に対して、それぞれの1年目の事業についての役割をお書きになっていますが、2年目の事業ではどういった役割をお考えでしょうか。4名に関してです。例えば事業プロデュースマネージャーですと、仮囲いの壁のディレクションというのはもうないわけで、ただいろいろな金額があるのでそれぞれどういったふうに、簡単にお答えいただきたい。

【スリーエフコミュニティサービス】 こちらはPRのほうを中心にしていくので、役割が若干変わっていくとは思っております。その各役割がどうなっていくかというのは、誰がどれぐらいの金額になるかというのはちょっとまだ今、僕らのほうでまとめ切れていないので、こちらはまとめてお知らせします。

【伊藤委員】 わかりました。SNSをお使いになっているアーティスト自身の広報効果が大きいということなので、そういったものを中心とした予算になるのではないかと思うので、この1年目は大分内容が変わるのだと思います。ぜひそこは担当課と詰めてください。

【大江委員長】 ほかはいかがでしょうか。では秦野さんどうぞ。

【秦野委員】 私は展示について質問をさせていただきます。事業スケジュールの中で6月から8月にメモリアル事業とか、ゆかりのアーティストのPRの展示を予定されていると思うのですが、今回例えば何人ぐらいの方にお越しいただこうと思っているのかとか、お子さんも含めどんな世代の人に来てもらおうと思っているのか、イメージがあれば教えてください。

【スリーエフコミュニティサービス】 何人ぐらいというのは参加アーティストという意味ですか。

【秦野委員】 見に来る方の。

【スリーエフコミュニティサービス】 最初の映像の中で参加していたアーティストにはもちろん声がけもしますし、ちょっとこの事業を見て、僕らのほうに東急電鉄さんから問い合わせがありまして、半年ぐらい前にぜひこういうアートなイベントを一緒にやりたいという話がありました。渋谷キャストという渋谷ヒカリエの並びに最近できた大きな商業ビルがあるのですが、ちょうどきのうそこでアートイベントをやって、50人ぐらいアーティストの方たちに参加してもらったのですが、そのときにちょっとこの話もしたら、ほとんどのアーティストからぜひ僕らもまた茅ヶ崎でやりたいというような返事をいただいているので、アーティストは15名から25名ぐらいは集まるのかと思っています。あと、アーティストだけではなくワークショップに参加したお子さんたちにも、あの様子の写真とかも親御さんに許可をいただいて、実際ワークショップがどのように行われたのかというのも詳しく説明できればいいなとは思っています。

【秦野委員】 来場される市民の方の数とか、どれぐらいの方に見てもらおうかというイメージですか。

【スリーエフコミュニティサービス】 10人ぐらいは。

【文化生涯学習課】 それと、文化会館のリニューアルオープンに合わせて行いたいと思っておりますので、リニューアルオープンに来ていただける利用者の方には見ていただけるようにしていきたいと思っております。

【大江委員長】 あと1名ということですが、よろしければ。では椎野さん、どうぞ。

【椎野委員】 最初に画面で見せていただきました、アーティストの絵がございましたよね。すごく生き生きやっていたのですばらしいと思うのですが、それをアーティストだけで囲ってしまって一般の方に公開なさらなかったということですが、それには意図がございましたか。

【文化生涯学習課】 こちらのアイデアは市のほうで全く想定していなかったものなのですが、内田さんの提案で、3月中、文化会館が閉館して工事に入るまでの間にこういったことを行いたいと提案をいただきまして、それからいろいろと調整をしたのですが、やっぱり、安全上、管理上の問題から一般の方を入れるのがちょっと難しいという決断をしまして、アーティストさんに一応つくってもらうことはしたのですが、これはなるべく写真ですとか動画におさめて市民の方に見ただけということ、こういった形になっております。

【大江委員長】 ありがとうございます。それでは時間が参りましたのでこれで終了します。どうもありがとうございました。

【事務局】 それでは次です。「茅ヶ崎市の未来を考える政策コンテスト」の皆様、準備をお願いします。

【企画経営課】 企画経営課の大澤と申します。よろしくお願ひいたします。私どもは、若い世代に市政に関心を持ってもらい、まちづくりへの参画を促していくことを目的に、NPO法人ドットジェイピーさんと協働推進事業として、「茅ヶ崎市の未来を考える政策コンテスト」を今年度やらせていただきました。9月から11月にかけて実施いたしまして、つい先月、コンテストを終了したばかりで

ございます。市民活動推進委員の方からご指摘いただきましたとおり、10年後の将来像をテーマに、41人、10チームの方から出場いただきました。人数につきましては、人数こそ目標にはちょっと達しませんでしたでしたが、目標どおり10チームから政策提案を受けることができました。各チームとも、独自にアンケート調査やフィールドワークなどを実施されておりまして、茅ヶ崎の町の空気を実際に感じながら、調査に裏打ちされた政策を立案、発表されたとともに、互いに意見をぶつけ合うなどして、コンテスト当日は大変に盛り上がったものと感じております。今年度行いました詳細につきましては、NPO法人ドットジェイピーの秋本さんのほうからご説明させていただきます。

【ドットジェイピー】 ご紹介いただきました、ドットジェイピーの秋本でございます。この祭事は41人の出場者と、それから決勝の観覧者19人が、直接的な参加者になります。期間中は4回のイベントを行いました。1つ目はキックオフと申しまして、出場者の方々に最初のルール説明や茅ヶ崎について学ぶ機会。それから、まち歩きとしましてバスに乗って市内をめぐり歩く機会。中間チェックとしてこの間で考えてきたことを主に市職員さんからアドバイスをいただく機会。それから最後、決勝として一般の方々にプレゼンをする機会というのを設けました。出場者の内訳です。出場者募集に関しては、県内の大学、それから教授さん、一般の市民団体約1500人ご協力いただきました。それ以外にドットジェイピーがリーチできた大学生261人へのアプローチが最終的に41という結果になっています。エントリー時には実はもう4人いまして45人だったのですが、学業の都合ということでお一人リタイアされました。ボリュームとしては横浜市が44、茅ヶ崎在住でいうと24、在学者を含めると39で、5割には満たなかったけれども、39まではいったなという感じです。県内の在住者がほとんどでございます。県外はほとんどいないという状態です。

出てきたプランなのですけれども、雇用状況の改善というものが6件で、やはり就職を控えた大学生らしいなという感じです。もう一つ、やはり若者らしく半ば派手なことをやって人の注目を集めて、茅ヶ崎を盛り上げようという思いがあって、シティセールス系が強いと。それ以外に、卒業した後に彼らがどう学びを続けるかという関心において、生涯教育なども多かったです。それ以外は、満足度調査で見ると交通状況の改善というのは非常に高い要望なわけなのですが、若者の目から見ると注意というか4件程度にとどまっています。それから、地域コミュニティ、学校教育、防災、子育て支援、税収改善というのは、ふるさと納税の返戻品として文教大学の授業をあげたらいいんじゃないかというおもしろいものでした。

優勝しましたのは、茅ヶ崎に住んでいる方の学生団体でございます。学校のクラブ活動にすごく疑問を持っていらっしゃっていて、クラブ活動を廃止して地域ごとに児童の運動の場を設けるとか、障害者スポーツを振興するというような案を出されていました。これがそのときの発表の写真なのですが、割愛いたします。これがキックオフの様子ですが、このように発表したりとか船井総研の方に講師をお願いしたのですが、その方から学びを得たりとか、我々がご用意したワークブックについて活動しているところです。

これがまち歩きということで、町のさまざまな状況を実際に目で見て回っています。参加者6人で若干少なかったのですが、これを見て焦りまくったほかのチームが、ここからがんがん自分でフィールドワークをするという状況を生むことができました。これが中間チェックで出場者がアドバイスを受けている様子です。かなり手厳しいアドバイスも頂戴いたしました。これが決勝でございます。いろいろ発表したりとか、出場者相互で厳しい質問をし合ったりとか、優勝者はこのように取材をいただいたりしています。

以上の3回の祭事の中に、我々がさまざまなサポートをしています。毎週1回のレポートは延べで

90通になります。それから毎週1回以外の週6日分、深夜帯問わずLINEメッセージで総勢サイン442通のやりとりでフォローをさせていただきました。ちょっとこちらは小さいのですが、最終的に出場者側からもご感謝をいただくような親しみを込めたやりとりができたと思っています。これが数値的な結果です。茅ヶ崎市に住みたいという人の総勢が52%で、市在住であっても40%であったことを考えると、市外から住みたいと思った人がいたということが言えるかなと思います。それから、まちづくりには「積極的にかかわりたい」「かかわりたい」が合わせて90%を超える状態。愛着の深まりに関しては総数はそんなに変わりませんが、青の「深まった」がうんとふえていて、3回のイベントをやりプログラム化されていることに意味があるという調査かなと思っています。ここから先は2年目の事業のことになりますので、少しまた大澤さんからお話したいと思っています。

【企画経営課】 今、秋本さんのほうからお話がありましたが、ドットジェイピーには学生さんたちのような年代のスタッフが多くいまして、その方たちが中心となってきめ細やかなフォローアップをしていただきました。行政ではなかなかここまで対応できないものと思っております。逆にそうした行政は市政情報の提供、説明に特化することで、出場者にとっていい形での役割分担ができたものと思っています。結果として、先ほどのアンケート調査のようなものが出てきたと思っております。また、今回コンテストの観覧に来られた方の中に、平成26年度の同コンテストに出場した方がいまして、その後、ドットジェイピーにスタッフとして参加して、ことしから市の職員として活躍されている方がいらっしました。このような形で一定の効果が得られていると思われます。ただ、この効果を来年度またどうやって広げていくのか、より多くの方を巻き込んでいくのか、というのが課題と考えておまして、そのあたりのことをまたドットジェイピーのほうから、改めてご説明させていただきます。

【ドットジェイピー】 済みません。時間が過ぎてしまいましたが、来年のことを本当にかいつまんでご説明します。来年は対象年齢を広げたいと思っています。チーム数は終了時点で10人以上ふやしたいと思っています。高校生にもアプローチします。大学へのアプローチは、今まで個人、教授個人でしたが、役員や学生課へのアプローチもしています。出場者の市民割合を39から50%にふやしたいと思っています。観覧者数が少なかったので50にしたです。それから、まちづくりに対する、総数は90を超えていますけれども、積極的にやりたいという人が半分以上になるようにというふうに思っています。以上でございます。長くなりまして恐縮です。

【事務局】 ありがとうございます。それでは質疑に移ります。大江委員長、よろしく願います。

【大江委員長】 どうぞ、それではご質問を。伊藤委員、どうぞ。

【伊藤委員】 ドットジェイピーさんにお聞きしたいと思うのですが、全国各地で同じようなことをやっていて、茅ヶ崎市でぶつかった困難、あるいは特徴、特質、そういったことを教えていただけないでしょうか。

【ドットジェイピー】 ここだけの話で、かつ身もふたもない言い方なのですが、他市に比べて学生のレベルが高いということがまず挙げられます。それからどこもやっていらっしますけれども、フィールドワークをしている度合いが、例えばみずから町内に再三アポイントをとって話を聞きに行ったりとか、学生の頭のよさもありますし行動力も非常に強いということが挙げられています。それから、目立って極端に困った問題がない反面、むしろ町をイベントで盛り上げたいみたいなプラスのイメージで町のことを考えている学生が多いというのも一つ特徴だと思いました。

【大江委員長】 いいですか。どうぞ。

【水島委員】 今回の全体の評価が5ということで、想定よりはるかによいという評価を行政側のほうと団体さんのほうでされていますので、よかった点というのをさらにまた生かしていただきたいと思うのと、課題のほうでやはり茅ヶ崎のことを余りよく知らなかったというようなお話も出ています。この事業は委託も含めて4年ぐらいずっときているのかなと思うのですけれども、多分これはずっと続いている共通した課題なのかなと思うのです。そうしたところで来年度に向けて、ちょっとさっき聞き逃したので申しわけないのですが、今までの状況を踏まえた中で特にここは改善して進めていきたいという点があれば教えていただきたいと思います。

【ドットジェイピー】 やっぱり、フィールドワークをどれだけさせて学びをさせるかということなのですが、今回6名しかオフィシャルなフィールドワークに参加できなかったのは、残念ながら候補日が限られていて1日しかなくて、行きたかったけど行けなかったということが多かったようです。ですので、まずオフィシャルのフィールドワークについては募集の段階から日程を決め込んで、参加をほぼ必須というようにします。それによって、少なくとも1回はフィールドワークをして、各チームさらに自分の問題点に沿ってもう1～2回はフィールドワークをする。これを義務づけるようにしていきたいと思っています。というのが改善策です。

【伊藤委員】 行政とのプランは幾つかあるのですが、実際の政策策定者とのつながりは今後お考えになっていますでしょうか。

【企画経営課】 議会とということでしょうか。

【伊藤委員】 若い人たちが政策を提案する、その政策のプロである議会議員の方々との交流というのは、この手法では考えていないのでしょうか。

【企画営業課】 そうですね、今年度に関しましては審査員としてお呼びすることはなかったのですが、来年度に関しましては議会のほうとも相談をしまして、また途中の中間報告ですとか、そういったところでも少し参加していただけるかどうかというのは、検討してまいりたいと思っています。また、茅ヶ崎市には、行政とのかかわりもそうですけれども、市民活動団体さんも多く活躍されていらっしゃると思いますので、そういった方々のかけ橋となれるような、何か機会が設けられたらいいなというようなことも、ちょっと今、我々のほうでいろいろ考えているところでございます。以上です。

【大江委員長】 ではどうぞ。中川さん。

【中川副委員長】 昨年からの協働事業ということになって、期間の想定、未来に向けての、10年ぐらいになったとかですね、フィールドを調査しながら少しずつ茅ヶ崎という地面に近づいてきているなという感覚を、今回発表を受けて感じまして、それはそれなりに協働事業としての意味が非常にあるのかなというふうな感想を持ちました。これは私の感想ですけれども、茅ヶ崎の若者というのは確かに8割ぐらいは外に出ていくというような可能性はあるのですけれども、ジモティーといいまして、地域に根差して起業している若者なんかもいまして、就農とか、あるいは飲食店を経営したりとか、そういうような幅広い営みを持っているのも茅ヶ崎という土地柄かなというふうに思っていて、大学生とか知的な資源としての知識だけではなくて、そういうふうな地元で頑張っている人たち、若者の参加とか、その人たちがどんなふうな課題を抱えているとか、そんなことも含めて将来像を描いていただくと大変ありがたいなと思います。これはだたの注文ですけれども。

【企画営業課】 ありがとうございます。ちょっとその辺は来年度実施するに当たって検討させていただきますと思います。

【大江委員長】 ではどうぞ。草野さん。

【草野委員】 この表にもありますけれども、観覧者数の増加ということです。ここは今回私も発表



を聞いたのです。若者ではないのですが、おじさんが聞いてもかなりインパクトがあるような発表で、考えさせられる部分がいっぱいあったと思うのです。そういう意味では、もっともっと多くの方が、若い人も含めて観覧者数をふやす工夫をしたいいただきたい。こちらに、市役所以外でやるという、それも一つだと思いますけれども、募集なり、やるよと言ったときの、何を得られるか、何を感じられるかというのも少し工夫しながら募集チラシを入れればいかなと思っております。以上です。

【大江委員長】 これは例えば、発表会はインターネットで中継するみたいなことというのはあり得るのでしょうか。

【ドットジェイピー】 あり得ますし、うちとしては機材も持っています。ただ、インターネットでやるにも、今、委員からおっしゃっていただいたような同様の課題がありまして、やっぱりやってみたときにインターネットも視聴者数が如実に出るので、見てみたら5人しかいなかったとかというところむしろ盛り下がり招くので、同じように事前の相当な周知が要するという覚悟で検討したいと思いません。

【大江委員長】 ほかはいかがでしょうか。よろしいですか。それではなければこれで終了したいと思えます。どうもありがとうございました。（拍手）

【事務局】 続きまして、「ハマミーナ魅力アップ大作戦」の皆様、準備をお願いします。

では、紹介させていただきます。「ハマミーナ魅力アップ大作戦」、特定非営利活動法人まちづくりスポット茅ヶ崎の皆様、文化生涯学習課、福祉政策課の皆様です。よろしくお願いします。

【まちづくりスポット茅ヶ崎】 皆様こんにちは。「ハマミーナ魅力アップ大作戦」2事業年度目を提案させていただきます、特定非営利活動法人まちづくりスポット茅ヶ崎の柴田と申します。

【文化生涯学習課】 担当課、文化生涯学習課の平本と申します。よろしくお願いします。

【文化生涯学習課】 同じく、文化生涯学習課の滝田と申します。よろしくお願いいたします。

【福祉政策課】 福祉政策課の鈴木と申します。よろしくお願いします。

【まちづくりスポット茅ヶ崎】 それでは着座にてご説明させていただきます。よろしくお願いいたします。まず、「ハマミーナ魅力アップ大作戦」について改めてご説明させていただけたらと思います。現在、茅ヶ崎市南西部の中心にある浜見平は、施設の老朽化を初めとする課題を解決するために、団地の建てかえを中心としたまちづくりが進行中です。新たな施設が生まれ、多様な主体がかかわる町に生まれ変わるこの地域において、エリアを横断的にマネジメントする機能が求められることになりました。ハマミーナは、市民のコミュニティを育む生活施設として、茅ヶ崎市初の公民連携の手法により2015年4月1日に開業いたしました。市民の生活を便利にすることを考えられた機能が備わっており、市民課窓口や保育園、ボランティアセンターや地域の包括支援センター、市民が気軽に利用できる図書室や調理室、体育室などがあります。

また、我々まちづくりスポット茅ヶ崎も、2015年4月1日から同施設が入りますランチ茅ヶ崎2階にある交流拠点において活動を開始いたしました。私たちは、ふだんの活動の中から生まれる地域の方とのコミュニケーションの積み重ねから、この町の魅力をもっと実感してほしい、50年先もこの町に住んでよかったと思えるまちづくりを支援したい、その一つとして、「ハマミーナ魅力アップ大作戦」を実施しております。

現在、町の再開発が進みまして、今まであった商店会など、地域のよりどころ、情報が集まるような井戸端的な場所が消失するようになりまして、長く住んでこられた方のベースが変わりつつある一方、新しく移り住む方も多く来られるなど、コミュニティの再構築という部分に地域が直面しております。そういったところでこのハマミーナの機能を高めて、住民の皆さんが感じる地域課題を

専門家につながり解決に向ける。また、生涯を通じて生きがいを感じられるまちづくりをする。そのために複合施設の強みを生かしていきたいと考えて、3つの提案を進行中です。

1つは、ハマミーナ総合案内業務です。ハマミーナ出張所が窓口を行っている時間帯をベースに、平日の9時から17時、利用者さんの対応を行っております。2016年度4月より、1事業年度目の取り組みを開始しまして、9月までの時点で通算125日間、1572件のお問い合わせにスタッフが対応を行っております。内容のほうは、暮らしに欠かせない生活情報ですとか、施設の利用にかかわることなどが中心にはなっているのですけれども、日々の中の小さな悩みですとか団地の建てかえにかかわること、エリア全体にかかわる情報など、かなり多岐にわたっております。総合案内ではそれぞれの問い合わせ内容を9項目に分類しまして、至急性の高いもの、重要度の高いもの、それぞれの優先度に合わせた対応を行っております。至急性の高い問い合わせについては、適切な返答ができるように施設の資料ですとか情報を集約したファイルを整備しております。メンバー間で対応の内容に差が出ないように、情報共有の徹底を行っております。また、重要度の高い問い合わせについては、文化生涯学習課、福祉政策課様との定例の打ち合わせで共有を行い、善処に向けて協議をしております。お問い合わせくださった市民の方には必ずフィードバックの対応を行ってまいりました。また、対応を行う中で新規に転入して来られる方にとって、町の情報を受け取る場所としてこのハマミーナが大きなよりどころになっていることや、特にシニア世代の方の生きがい探しですとか、仲間づくりが地域の中で大きな関心事ですとか、ニーズであるということが浮き彫りになってきました。この部分についても、文化生涯学習課と積極的な取り組みを進めており、まなびプラザを利用している団体さんと、これから活動したい方のマッチングの検討などを進めている状況です。

2つ目は、ハマミーナ探検隊の実施です。11月2日に開催いたしました。ふだんは目的のある施設だけの往復で利用することが多いというような利用者さんが多いことが、総合案内の対応を通して見えてきましたので、今回のハマミーナ探検隊ではふだん利用頻度の低い施設なども含めて、包括的に案内をすることを考えて行いました。そうすることによって、ハマミーナの施設全体の価値が伝わり、思わず誰かに伝えたいような魅力的な施設であることのPRになったことが、参加者の方のアンケートから読み取れると考えております。また、加えて、今後施設のほうに期待することなども見えてまいりました。

3つ目は、ハマミーナ交流会の実施です。こちらは10月28日に行いました。ハマミーナを積極的に活用したいと考えている市民の方と、既に生涯学習などで施設を定期活用している方、また、市役所の関係各課の職員の方がテーブルに集まりまして、まちづくりスポット茅ヶ崎はナビゲーターという役割をとりました。自由な意見交換が実現できたことと仲間づくりのきっかけになった、施設のことだけでなく地域の情報を得ることができた、などの声が寄せられています。平成30年度は初年度に見えてきた傾向や期待されていることを、まちづくりスポット茅ヶ崎ならではのフットワークの軽さと実行力をもって取り組んでまいります。

平成29年度に行われました3つの事業を軸に、年度末にはこの事業の総まとめとして施設の情報を満載させました事業報告書の発行を行う予定です。これは、内部に向けての資料ではなくて、地域の方が手にとって使うフロアガイドのようなイメージで行いたいと思っております。この2年間で培った情報をフロアガイドの事業報告書に全て集約させることによって、集めた情報を地域の方に還元するというところでこの事業に取り組んでまいりたいと思っております。

【文化生涯学習課】 今回、まちづくりスポット茅ヶ崎さんとの「ハマミーナ魅力アップ大作戦」事業スタート時には改善していきたい点といたしまして、主に3つありまして、1点目は、利用者への

能動的な情報発信。2点目は、情報展示室の活用方法の検討。3点目は、ハマミーナ内他事業、他施設との連携というものがありません。現在、実際に始まって半年たちました。そうして魅力アップ大作戦が始まりまして、行政として、文化生涯学習課として感じている効果といたしましては、同じく主に3点あります。1点目は、総合案内での情報発信量の増加。2点目が、交流会、探検隊の実施ができたこと。3点目は、今、まちづくりスポット茅ヶ崎さんが利用者の方の声をまとめてくださっている資料を施設内の各課に渡しているのですが、こちらで各課への業務改善へとつながっていることが感じられています。特には総合案内で、以前はシルバー人材センターの方がいてくださったのですが、今、まちづくりスポット茅ヶ崎さんに変わってからは、まちづくりスポット茅ヶ崎さんと話すことを楽しみに来ている方、その会話を通じて利用者の方の潜在的な要望など、意識などを引き出せていることが、利用者の方への次のステップへと踏み出せる機会となっていることと感じおります。

【福祉政策課】 それでは最後、福祉政策課からなのですが、最後にありますとおり、具体的な声として情報展示室につきましてのアイデアが出てきております。この辺を行政とNPO双方の視点から、より効果的な情報展示、また、情報の発信ができるよう情報展示室が若干活用できていないというところを、今後穴埋めしていきたいと思っております。済みません。少し超過しましたけれども、発表を以上としたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

【事務局】 ありがとうございました。それでは質疑に移りますのでよろしくお願いいたします。

【大江委員長】 それではどうぞ。ご質問をお願いします。

【水島委員】 総合案内の役割が大変広いなという印象を受けました。ハマミーナだけではなくて、市のこととか周辺のこととかもろもろご相談があるようなのですが、割合的にはどの程度の割合なのでしょう。ハマミーナのこととそれ以外のことと。2つ聞いてしまってもいいですか。

【大江委員長】 はい。

【水島委員】 あと、交流会なのですが、今見ましたら6名ということで、利用者の方とか団体の数からいくと何か少し少ないような印象を受けたのですが、もし交流会について今後の考え方があればその点についても教えていただきたいと思っております。

【まちづくりスポット茅ヶ崎】 ご質問ありがとうございます。まずは、日々集まる内容についての割合なのですが、先ほど報告しました1500丸々件というのは、本当に小さい、ごみの収集カレンダーありますとか、こういう役所の関係の手続はどこでしょうかということも含めた件数となっております。数字の数でいきますと、圧倒的にそういったお問い合わせのことが多いので、施設に関することとか、施設の中の、例えば開業時間に関することというようなインフォメーションが7割から8割ぐらいは占めるかと思っております。地域のことに関することとか、日々の会話から生まれるようなことというのは、そのうち2割程度かなと思っはいるのですが、先ほどちょっとご報告も申し上げたように、そういう会話の中からやっぱり仲間づくりというのがこのエリアでは重要な課題なのだとか、団地の建てかえにこれだけ関心を寄せている方がいるから、もうちょっと皆様に広く告知をしたほうがいいのではないかというような課題は、2割の中から内容の濃いものを拾い上げているというふうを考えております。

【文化生涯学習課】 交流会については、今、ご指摘の中で、人数が6人だったということで、今後の交流会の方向性という点なのですが、おっしゃるとおり今回6名ということですが、今実際に、まちづくりスポット茅ヶ崎さんとも反省している点が、今回広報のほうで、実際にいつもほかのイベントをやるときみたいにチラシなどをつくって、メール配信サービス、ホームページなど一定の広報

周知はしたのですけれども、今後は実際にハマミーナを利用されている団体の方に、個別に通知などをお送りして個別にアプローチして、より利用者の方の参加を促していきたいと思っております。

【大江委員長】 どうぞ。では先に椎野さんいきますか。

【椎野委員】 いいですか。

【大江委員長】 どうぞ。

【椎野委員】 私も今の質問に関連なのですが、全く同じことを考えておりました。それで一つ、いろいろなご質問があるということでございますが、この中で重要度の高いものというのがありますよね。それでこの中の、仲間づくりや生きがいづくりにつながる声が多く寄せられたということですが、例えば仲間づくりとか生きがいということの中で、対応をどのようにされているのか。例えばその内容もちょっと重要度が高いな、こういうのがやはり私たち茅ヶ崎においては非常に皆さんが思っていることで、これは欠かせないというようなものが、感じられたものがあるかどうか。あったものはどういったものなのかを教えてくださいと思います。

【まちづくりスポット茅ヶ崎】 ありがとうございます。まずは、まちづくりスポット茅ヶ崎からご回答申し上げます。繰り返しにはなるのですけれども、地域にとって仲間づくりとか趣味のことを広げたいというお声が多いのは、やはり新しく転入されて来られる方が多いからだというようなポイントに少し気づきがありました。現在、まなびプラザの会議室とか音楽室というのは非常に人気の高い施設で、なかなか場所を押さえにくいというようなこともありますけれども、決まったお仲間の方で使うというような部分が多いというようなお話もありました。そういうところをぜひ新しく転居してこられた方、趣味の幅を生涯を通してやりたいと思っている方に、もっともっと情報を広げていく取り組みをしたいところを、話し出しでは文化生涯学習課様とはしております。その手法の一つとして下に、小さいものなのですけれども、イベントカレンダーというものを窓口に設置しまして、文化生涯学習課様から提供いただく情報は全てあそこに網羅をさせていただいて、問い合わせがあったときにはすぐ情報提供できるように、手元に全て集約したものを用意しておくというような取り組みは進めてはいるのですけれども、先ほどお話にも出ました、交流会の部分で本当は今年度中にもう少しそういった課題をクリアできるような提案ができたならよかったなという部分は反省点として考えておりますので、次年度はこれからのところでそういったことも含めて考えていきたいと思っております。

【大江委員長】 伊藤さんお願いします。

【伊藤委員】 先ほどの問い合わせの中で、いわゆる想定されていたハマミーナ施設以外の質問が多いことに大変驚きました。同時に、このパワーポイントのプレゼンテーション自体も作戦というだけあって、なかなかうまいサイクルをつくっているというふうに感じました。こういった報告を含めて恐らく地元の方々、新しい住民の方々との契りがより拡大しているような感じをととても受けます。そういった意味でも、このパワーポイントのような報告を含めて交流会のみならず、もっといろいろな形でもって地域住民と施設のハードを離れた、もっと広い意味でのハマミーナとしての機能を高めていける可能性が考えられると思いますので、担当課さん、それから団体さんとよく話し合って、2年目、3年目と続ければいいと思います。

【大江委員長】 私から一つ。2年目も同じ枠組みなのですけれども、1年目の反省を踏まえて、例えば参加者が1桁と少なかったということからすると、同じ枠組みでやってもそんなにふえないかもしれないということであれば、別の形のやり方というものもあるのではないかという、アイデアも出たりする可能性もあると思うのですが、そこは同じ枠組みでいくんだということに変わりはないのでし

ようか。それとも、また少し考え直すということもあるのでしょうか。

【まちづくりスポット茅ヶ崎】 ありがとうございます。広報の手法としては、多分今年度と変わらないような形、基本的には広報ちがさきさんに粹をいただくとか、私たちのほうで今回チラシを1500部、交流会、探検隊に関しましてはチラシをつくりまして、配布をさせていただいたり、県民の方にポスティングをさせていただいています。SNSでの発信も行っているのですが、私たちは対象の方がSNS世代の方とは限りませんので、同じような3方向の告知を進めていきたいと考えております。一つポイントにあるのが、チラシの想定というかデザインみたいな部分もあったかと思うのです。ターゲットがどの世代に当たっている広報のデザインなのかがわからないとか、交流会、探検隊と、タイトルはわかるのだけれども中身がちよっと見えにくいチラシだったのではないかというような、具体的な問題点は挙げられたかなというふうに考えております。

【大江委員長】 ハマミーナフェアみたいなものというのは考えられないのでしょうか。つまり、多くの市民が来るということからすれば、何か1日、イベント的なものをハマミーナで開催すると、そこには市役所も、それからまちスポも、それからそのクリニックとかそういうところも全部、民間も入って、1日、ハマミーナを知ってもらいイベントみたいなものをやるという可能性というのはないのでしょうか。

【文化生涯学習課】 ありがとうございます。今、毎年1回、まなびの市民講師の方の、しろやまフェスタというのをやっているのですが、まなびの市民講師の方が成果を発表するというので毎年やってきたのですが、昨年度からまちづくりスポット茅ヶ崎さんや、新しくオープンしたブランチ2なども含んで、しろやまフェスタという名前で大きく1日イベントをやっているのです。そこの合体で、しろやまフェスタという中に交流会という場も今後は検討して盛り込んでいけたらなというふうには考えております。

【大江委員長】 あとお一人、時間がありますがいかがでしょうか。では中川さん、どうぞ。

【中川副委員長】 質問なのですが、こちらの予算書で見ると、人件費のところ、ハマミーナ総合案内、お一人時給1000円という。これはお一人でずっと総合案内はやられているということですか。何人かの交代制ですか。

【まちづくりスポット茅ヶ崎】 ありがとうございます。現在は1日2交代制をとっております。午前の対応者が9時から13時まで、午後の対応者が13時から17時までという形をとっております。

【中川副委員長】 多分、総合案内をされている方にはすさまじい情報がストックされていくと思うのです。ゆくゆくは地域住民とのかかわりとか、地域社会のいろいろ課題みたいなものも、だんだんわかってくると思うのですが、そういう中で将来的にはコミュニティワーカーみたいな形で、あるいはコミュニティコーディネーターみたいな形の機能をお持ちになっていくと、さらに発展してもっと時給を上げてもいいのかなという感じもしていますけれども、ただの印象です。そんな感じがしました。

【大江委員長】 ありがとうございます。それではよろしいでしょうか。ではこれで終了させていただきます。どうもありがとうございました。（拍手）

【事務局】 ありがとうございます。ここで休憩の時間とさせていただきます。なお、この休憩の時間を利用して、先ほどプレゼンテーションいただきました文化会館のメモリアルグッズのほうを、後ろのほうに並べていただきたいと思います。ぜひご興味がございます方いらっしゃいましたら、お手にとって確認していただければと思います。再開は11時40分からとさせていただきます。

(休憩 AM②終了)

【事務局】 それでは再開いたします。続きまして「防災への動画活用事業」特定非営利活動法人湘南ふじさわシニアネットの皆様、防災対策課の皆様、よろしくお願ひいたします。

【湘南ふじさわシニアネット】 皆様こんにちは。湘南ふじさわシニアネットの小林です。

【湘南ふじさわシニアネット】 同じく、市川と申します。よろしくお願ひいたします。

【防災対策課】 防災対策課の杉本と申します。よろしくお願ひします。

【防災対策課】 防災対策課の窪田と申します。よろしくお願ひします。

【湘南ふじさわシニアネット】 それでは私のほうから平成29年、本年度の進捗状況の報告と、来年度どうしようかという話しをさせていただきます。まず、この事業は今年度、防災倉庫にある機器類、資材を示しましょうと。平成30年度は市民まなび講座でいろいろな発信している情報を動画化しましょうということ、伝えさせていただきました。1年目の平成29年度の進捗状況ですが、昨年説明したスケジュールが正直なところ少し遅れておりまして、これはですね逆に、防災対策課さんといろいろなディスカッションをしまして、最初にサンプル的につくった、照明関係などは何度も撮り直しをして編集会議を何度もやったりしまして、動画の完成したイメージというのをお互いに共有しました。そういうことで、結果的には私たちはよかったですと思っておりますけれども、そういうことで時間を要しました。それから、防災対策課さんはいろいろなことをやっております、特に防災リーダー養成研修会というのは2日間フルにわたっていろいろな自治会から来られた方に説明してはいますが、私たちもフルに参加させていただいて、茅ヶ崎の防災実態をよく理解することができました。

それで、先ほどの話に戻ります。最初の動画作成は楽をしたのですが、それで相互の考え方がまとまってきましたので、正直10月、11月は非常にハードなスケジュールで全て撮影はいたしまして、まだこれから編集会議をやりますけれども、一応めどは立ってきております。そのようなことで、平成29年度は8本の動画をつくるということをお約束しているのですが、そのうちの3本は完成しております。これは事前質問にいただきまして、URLをお示ししましたので見ていただいたかと思ひます。残りの5本についても既に撮影が済んで編集してはありますが、これから鋭意編集会議でまたいろいろもんでいこうとしております。というような状態で多少おくれぎみでしたけれども、年度内には予定どおり全ての業務を終了できるような見通しができました。完成した動画をお見せしようと思ひたのですが、ここはWi-Fiもパワーポイントの機能もうまく使えないということなので、これは既にURLをお示ししたのでよろしいかなということ、これは既にURLをお示ししたのでよろしいかなということでパスとしています。

来年度は一応、新学ば講座で、防災についてはアンケートをとって地域の災害リスクに備え、いろいろ多様な、海のほうは津波とかということもありますし、クラスター火災の問題とかありますので、そういうことで、この8つのアイテムを来年度つくろうと考えております。来年度の事業予定は、これは今年度の事業も同じですけれども、市民が市のホームページから閲覧できるようにするということと、それからDVDも作成して自主防災組織や自治会の日ごろの防災研修に活用するということ、進めていきたいと思ひます。協働の役割分担としましては細かく書きましたけれども、防災対策課さんも非常に頑張ってくださいまして協働して進めております。

以上が団体からの報告ですが、防災対策課さんのコメントをお願いします。

【防災対策課】 防災対策課のほうから、今回のこの協働事業1年目、2年目と合わせて2点、お伝えしたいと思ひます。まず、動画を作成して公開してはどうかということについての必要性なのですが、1年目の資機材の取り扱いにつきましては、これまでなかなか取り扱いを学ぶ機会を皆様につくってなかったということと、備蓄されている資機材の存在自体も、なかなか知っていただく機会がなか

ったと。防災リーダーの方についても、やはりその研修会に参加された1回のみであったという現状がございます。また、2年目で行おうとしている学び講座につきましても、現状では10人以上の団体様のほうからお申し込みいただくルールとなっているので、個人の方が学びたいとした場合に各ご家庭に職員が回れるほどのマンパワーもないということで、なかなかその機会をつくってあげることができなかつた。また、団体のほうが学び講座を申し込まれた場合でも都合により参加できない方々もいらっしやつたというところでは、個人単位で学習を可能にして復習もできる環境を提供することで防災学の向上が図れると思っております。

また、もう1点、協働の必要性です。なぜ協働事業を我々のほうでも選んだかといった点につきましては、一言でいいますと、協働という手法によって、つくり手と見る側の意見のすり合わせが可能となっている点です。例えば業務委託ですとか、そういった手法ですと仕様書に全て、撮る素材のことや長さのこと、見せ方のこと、あらかじめ決めておく必要があるかと思うのですけれども、今回は市民活動団体様の意見を取り入れながら動画をつくり込んでいくという手法に、防災対策課としてもメリットを感じているところでございます。

防災対策課からのご説明については以上になります。

【湘南ふじさわシニアネット】 私どもの説明はこれで以上です。

【事務局】 ありがとうございます。それでは、質疑に移ります。委員長、よろしく申し上げます。

【大江委員長】 それでは、どうぞ。水島さん。

【水島委員】 資機材の関係はとてもわかりやすく、とてもいいピックアップだと私は思っております。残りの部分もぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

来年度ですが、代表的な講座内容ということで挙げられていまして、自治会とかそういう意味でもある程度研修に活用ということですが、テーマだけを見ますと、やはり国や県がつくったりということで幾つかあるのかなと思うのです。特に茅ヶ崎市としてつくっていくというところで、特にこういう点について配慮していきたいという点があったら教えていただきたいと思ひます。

【湘南ふじさわシニアネット】 では、私のほうから。実は、地域によってニーズがかなり違うのです。火災に非常に関心があるところと、それから、海沿いは津波に関心がありますけれども、山側は土砂災害とか。国がつくっているものなどと違ひまして茅ヶ崎は、例えばクラスター火災などは一番危ないとか、それから、地震について私も関東大震災を調べたのですけれども、そのとき3000何百戸、茅ヶ崎市にあったのが、ほとんど壊滅しているのです。そういうようなこともあって、茅ヶ崎独自の問題というのは非常にありますので、市民学び講座もその線で進められていると理解しております。

【大江委員長】 防災対策課、どうぞ。

【防災対策課】 とるメニューについては、我々がふだん、市民学び講座のほうで伺った際にご説明している中心的なものとして、まず、企画書にあります①～⑤というところでさせていただいているのですが、7月に行われました防災リーダー養成研修の中でも参加者の方にアンケートをとりまして、どういった学びのメニューがあったらいいかということで、例えば避難所の運営や避難場所のこと、あとは在宅避難の方法、こういったことにニーズがありましたので、そういったものをまずメニューとして盛り込んでおります。学び講座につきましても、防災対策課のほうのメニューを使用させていただき機会が非常にございまして、28年度、昨年度は30回、延べ1365人の方に参加いただきました。1回当たりの平均が45人です。29年度につきましても、今20回の、昨年と同程度の要望をいただいております。各地域のほうに説明に参っているような状況になります。以上になります。

【大江委員長】 どうぞ。

【伊藤委員】 先ほど、ユーチューブを見せていただいたのですが、情報弱者、外国人であるとか、あるいは色弱の方、ユニバーサルカラーを使うとか、そういったことに関して2年目、あるいはそれ以降、計画されているでしょうか。

【湘南ふじさわシニアネット】 実は、このスタートをするときも手話を入れましょうかとか、そういう話もあったのですが、正直なところ、この防災の先頭に立ってやる人たちはかなり健常者でないと難しいのではないかなと思っておりまして、例えば、ことしから避難行動要支援者支援制度ができましたけれども、これはやはり健常の方が要支援者を助けていくということで、この情報を一番伝えたいのは一般の健常な市民ではないかなと私は思っております。もちろん、普通のアクセシビリティに必要なことはやりますけれども、余りそれを情報弱者まで含めてしまうと、健常者にとっては実はかなり煩わしいことにならないかなと思っております。防災対策課さん、どうでしょうか。

【防災対策課】 団体様のほうの意見を尊重しつつ、最低限、動画の下に、メッセージとして伝えたいものについてはテロップで、見ていただいた中にもあったかと思いますが、そういったもので補足するというようなことですか、あと、使う資料につきまして、学び講座などで使っている資料はそもそも、そういったアクセシビリティ、バリアフリーの関係などを考慮した資料の作成を、ガイドラインなどで指示されておりますので、そういったものを使用した動画としていきたいと思っております。

【伊藤委員】 色に、もう少し気を使ったほうがいいのではないかなと思ったのですが、おわかりになっていると思います。それから、外国語版をつくるのはそんなに難しいことではないと思いますので、ボランティアを含めてできるかなと思います。

【大江委員長】 ほか、いかがでしょうか。北川さん。

【北川委員】 動画は実際お使いになると想定している方々と、内容がこれでよいのかどうかという、そのあたりのすり合わせというのはされているのでしょうか。団体さんから、お願いします。

【湘南ふじさわシニアネット】 まだ市民の方に公開していないので、まだすり合わせはできておりません。先ほど、防災対策課さんのほうから話がありましたように、7月の防災リーダー養成研修会でいろいろアンケートをとったところ、動画に関する期待は非常に高いのです。市民の方々、我々も市民ですので、わかる範囲で私たちの意見を入れているというところで、まだ公開していませんので、公開した後で市民の方からいろいろご意見があれば、先ほどの色に気をつけるとかいうことも含めて、少し検討させていただきたいと思っております。

【大江委員長】 私から1つ。2年目は、1年目と動画作成という点は同じですけれども全くコンテンツが違うということになります。これは既にある講座でやっているものをそのまま動画にすることなのか、それとも新たに講座の内容をコンテンツから作り直すのでしょうか。つまり、それによって全然コストも違うと思うのですが、どういう中身なのでしょうか。

【湘南ふじさわシニアネット】 実は、正直に申し上げますと、昨年提案したときは市民学び講座をそのまま撮影しようかなと思ったのですが、現実にはいろいろなお話を伺いますと地域によって全く人数が違って、防災対策課さんもそれに対応したものをされています。これからの議論になりますが、やはり典型的な例で、お客さんのいないところで撮るというようなことを考えなければいけないかなと思っております。防災対策課さんいかがですか。

【防災対策課】 言われたように、当初、我々も学び講座を動画化するというところで、そのまま市民の方のところに行って、やっている風景を撮られるのか、それとも動画向けに資料は資料でアップで出したりとか、そのままパワーポイントの素材に説明をかぶせたりだとか、そういったやり方が幾



つかあるかなとは思ってはいるのですけれども、市民の方の前に出て説明をしているというのは、反応を見ながらですとか、あとは、簡単に問いかけて、こういったことをご存じですかとか、そういったようなやりとりをしながら講座というのは進めていくので、それをそのまま動画化するのは、やはりふさわしくないだろうと思っております。なので団体のほうと、それ用に見やすい時間設定をして、伝えたい内容をコンパクトに伝えられるように今、編集をしていこうということで、来年に向けてのすり合わせをこれからしていこうと思っております。

【大江委員長】 コメントです。私は放送大学で実際にビデオを撮ってやっているのですが、的確に伝えるというのはすごい大変です。設備も、それから、いろいろなディレクションとかも含めて。だから、マニュアルをつくったことと同じコストでそういうことをやるというのは、ほとんど無理だと思うので、もうちょっとコストと中身の問題をよくお考えになったほうがいいと思います。

【湘南ふじさわシニアネット】 ご意見ありがとうございます。大江先生、そういったことを放送大学でやって非常にご苦労されていると思うので、私たちも放送大学で勉強させていただいておりますけれども、我々のできる範囲で、できるだけ市民の方にわかりやすいものをつくっていきたいと思います。

【大江委員長】 ありがとうございます。どなたか、いらっしゃいますか。では、草野さん。

【草野委員】 1年目の事業スケジュールのときはもうちょっと何月に何をやるというのがわかって見えたのですが、今、2年目の事業スケジュールを見ると6月から3月でつくりますというような、かなり幅の広い内容になっているのです。これは、いずれ、この後の全体会議などでもうちょっと詳細に何月に何ができるとかというところを詰めていくという認識でよろしいでしょうか。

【湘南ふじさわシニアネット】 そういう認識をしていただければと思います。実は、初年度はもっと資機材だからどんどんできるだろうということでやったら実際はそうでもなかったですし、今、委員の方々からもご指摘がありますように、これはなかなか、同じといってもいろいろな種類があつて難しいので、十分慎重に検討しながら進めたいと思います。

【大江委員長】 それでは、時間が参りましたので、これで終了したいと思います。どうもありがとうございました。

【事務局】 ありがとうございました。

続きまして、中学生への学習支援事業の皆様、準備をお願いします。それでは、「中学生への学習支援事業一わかる喜びを、生きる力に」、こども応援丸様、学校教育指導課の皆様でございます。よろしくをお願いします。

【こども応援丸】 よろしくをお願いします。こども応援丸の私、津田と申します。よろしくお願いたします。

【こども応援丸】 中村と申します。よろしくお願いたします。

【こども応援丸】 同じく、森でございます。よろしくをお願いします。

【学校教育指導課】 学校教育指導課の高橋と申します。よろしくをお願いします。

【学校教育指導課】 同じく、工藤でございます。どうぞよろしくお願いたします。

【こども応援丸】 座ってご説明させていただきます。私たちの事業は大体、大きく3つに分類できるのかなと思います。1つ発表していく前に、昨年開始した西浜中学校の連携による学習支援、それと事業の継続実施及び支援内容の充実のこと、それと中島中学校、これはことしのお約束になっておりました、もう1校ふやすというところが中島中学校というパートナーを選ばせていただいて、その中でやらせていただいている学習支援事業の開始の部分です。それと、学習ボランティア養成講座の

実施ということについて、きょうはお話しさせていただきます。

西浜中学校の学習支援ですが、あと、去年もこちらでご説明させていただく前に継続という形ですとやらせていただいております。こども応援丸として学習支援の事業は2016年11月より南湖公民館を使用して開始、というのは、今までは学校に私たちが入り込んでご協力させていただくということだったのですが、今年度は学校から外へ出て、隣接する南湖公民館にて学習支援をしましたということです。もともとの最初は、私どもの考えているところ、学校の授業につまずいている生徒さんだけを中心にやっていた部分があるのですが、学校から参加を呼びかけていただいて、要は、つまずいている生徒さんたちというのは、どちらかというとベールをかけなくてはいけない生徒さんで、その子たちがここへ集まって勉強しているよという、その子たちは、自分たちはそういう目で周りで見られてしまわないかなとか、やはりプライベートの部分で嫌かなというところがありました。学校の先生も、ほかの生徒も見てほしいということがありましたので、要は学校の生徒さん全員に対して、こども応援丸、ふだん学校がやっている学習の日に来ているあのおじさん、お婆さんたちが近くの公民館で何月何日に勉強会をやっているよというようなご案内を学校のほうでご協力いただいて把握させていただいたのです。そういうような形で、実際にベールをかけなくてはいけない子供たちには三者面談で、おたくのお子さんこうだから、ちょっとあそこ行ってみない？というのをピンポイントでお声かけさせていただくことでうまく交流ができていのかと思っています。ここずっと進めている中で6月に初めて、ふだんは毎月2回というような形で開いていた中で、今度はテスト前学習会というのを広げたのです。実は、きょうとあした、今の時間もちょうどやっているような状態で、南湖公民館で1、2年生を対象に学習会をやらせていただいております。

それと、食育のほうで食事会も開きました。あと、11月からは、こども応援丸の日というのを設けさせていただいて、今までは火曜日、木曜日とランダムでやらせていただいていたのですが、子供たちがこの日はここへ行こうというような概念を植えつけるためにも毎週火曜日、公民館で開催するという形に変えさせていただいております。

これが、今までの子供の参加者の人数とボランティアの人数の推移でございます。それと、下のほうの図は実際に支援を必要とする生徒さんたち、全体に占めるどれぐらいの子たちが支援を必要とする子供たちなのかというような推移であります。これをごらんになってもわかるように、中には、ちょっと少ないのではないとか、あるいは、1月27日、左から5番目の棒グラフあたりからちょっとびよんと伸びているようなところなのですが、ここからが1、2年生全員生徒を対象にするようになったときなのです。あと、真ん中辺の空間でぽんぽんと大きい人数になっているのは、これはテスト前勉強会のときでした。

西浜の生徒さんの部分で、これはアンケートの結果なのですが、意外といい結果が出ています。授業で質問できないことが質問できてよかったとか、家で余り勉強しなかったけれども勉強会に来るようなことがよかったとか、一つ一つ丁寧に説明してくれましたとか、テストでいい点がとれた、実際にとれたというような、学校と違って個人でわからないところを教えてくれるので苦手なところやわからないところもできるようになりましたというようなことです。自分もふだん、そこへ行って勉強を教えさせていただいているのですが、行っていて本当に楽しいのです。子供たちって、ちょっと続けてくるとこんなにできるようになるのだと、うれしさがそこに、自分にも湧いてくる、教えている側にもあると思うのです。中には、去年の夏休みからずっと来ている子で、県立高校がどこにも、それこそ、箸にも棒にもかからないようなお子さんがいらっしやうです。この間、校長先生とお話をしたら、その子が県立高校へ行かれるようになったよというようなお話を聞いたので、とてもう

れしく思っております。

これは中学校からのヒアリング経過なのですが、ちょっと問題があるのは、サマースクールについて負担感を感じる教職員の方もいらっしゃったというようなところですよ。

あと、中島中学校についても、したがってやらせていただいているのですが、今も限られた生徒さん8名様に限ってやらせていただいております。場所は学校内ということで、ただ、3年生に限ってやらせていただいているので西浜と違って、もう今、受験が間近な生徒さんなので週3回という形でやらせていただいております。

今後、あと私どもがやっていく中では、来年度、もう1校ふやさなくてはいけないのですが、それについては、実は中島がちょっと遅かった部分があったので頑張っって進めていきたいと思っております。途中になりまして済みません。

**【事務局】** ありがとうございます。それでは、質疑に移ります。委員長、よろしくお願ひします。

**【委員長】** では、どうぞ、ご質問をお願いします。

**【委員】** 新しく学習ボランティアの養成講座というのを始められる意味合いといいますか、そういうのを少し説明していただけますか。

**【こども応援丸】** 養成講座のある必要性というような感じでいいでしょうか。やはり、ボランティアさんでいろいろな考えの方がお見えになる部分があると思うのです。最初の部分ではじかれてしまうというのは、やはり有償か無償ではないかみたいなところですよ。自分たちはこれをやらせていただいている中で、あくまでも無償のボランティアをやらせていただいていると、そこへ来ていただいてやっていく中で、どういう子供たちがターゲットなのかと。皆さん、意外とレベルの高い部分で考えられているのですが、そういう部分ではなくて基礎の部分からやっていってくださいと。それと、自分たちの目標にあるものが、ただただ勉強だけではなくて、子供たちの居場所も考えて最初から取り組ませていただいているのです。やはり、そういうようなことを念頭に置きながら、ご理解いただくのもそうなのですけども、本当に子供が行き場を失ってしまうとか、自分の将来が見えないとか、そういった部分で、大人が感じて今まで経験してきたことを近所のおじさん、おばさんたちが、こういうことができるんじゃないの？とかアドバイスをするような、そういうようなこともボランティアの中に入れていただいているのが1つですよ。

それと、あともう1つは、大前提にあるのが、やはり守秘義務の部分ですとか、あるいは、よく世間ではあるような、中には、私ども地域の方々が中学生を教えるという部分で、高校生とか大学生とかいるのです。中には僕みたいになちょっと格好いい人たちもいるので、そうすると女の子たちとか、憧れてしまうといけないなという部分があるので、そういうような恋愛のことは無理だよ、だめだよということを訴えるような当たり前のことなのですけども、そういうようなことをやはり当たり前の中で植えていくということをやらせていただいております。そんなお答えでよろしいでしょうか。

**【委員】** とても重要だと思うのです。いろいろところで学習支援が始まっているのですけれども、その中でこういうのがなぜ必要になっているのかとか、どんなところで課題が出てくるかというのはまだ相互交流もないと思う中で、こういうものができていながら、これがもう少し広がっていくといいなと思います。あと、福祉的な問題とか、多分そういうようなことも背景に出てくるのではないかと感じてまして、そういう社会的な課題性みたいなものも含めて、この養成講座みたいなものがあると、ぜひ頑張っってやっていただきたいなと思ひました。

【委員長】 ほか、いかがでしょうか。

【委員】 この講座のお話を聞かせていただきまして、すごくきめ細かにいろいろ配慮されて講座を組まれているというのが、すごくわかりました。生徒全体に募集されたということもありますし、そして、来てほしいなという子には三者面談で対応されたということ、本当に素晴らしいなと思っております。今、ご質問がありました養成講座の件も、そういうことを含めまして地道にきちんとしたものを対応されているということで、私はこの講座に対しては本当に応援したいなと思っております。

それから、先ほどのお話の中で、指導者が子供たちと対応していてとてもうれしくなって、学習に弱い子が強くなってきたという、そういう成果が見られたということ、これはとても大事なことだと思っておりますので、茅ヶ崎市にかかわらず、いろいろなところにまだまだ、教えてほしいよという子がたくさんいらっしゃると思いますので、そういう子に今度は広く、少しでも多くの学校に対応できるように、こういう講座を設けて指導者をふやしていただいて、そして全市に網羅されるといいかなと思っております。ぜひ頑張ってやっていただきたいと思っております。

【こども応援丸】 ありがとうございます。今おっしゃるように、本当に子供ってこんなに成長するのかなという部分を感じるのがこのところ多々あるのです。去年から来ているような先ほどの生徒も、また別の生徒さんも、去年は本当に落ちつかなくて、トイレに行ってしまったたり、きょうは用事があるからもう帰りますなどと言って帰らせてもらっているような生徒が、「おじさん、これがわからないから教えてください」と英語が終わった後、数学のところへ行って聞いて、見るとばんばん丸ばかりなのです。そんな子ではなかったというか、これは多分、自分たちだけではないと思うのです。本人も多分、お家へ帰って勉強しなくてはそこまでできないと思うのですが、もしかしたら、ここへ来るときに何かきっかけを、彼が気づいたのかなという何かそれがあって、すごくうれしいです。こういう人をふやしてもらいたいですねと今、おっしゃっていただいたのですが、誰でもできることだと思うのです。そういう感激というのが、もしここで味わえる、多分、僕は味わっているし、ほかの方でも味わえると思うので、そちらに座っている方もぜひ講師として名前を挙げていただいて同じ感動を味わいましょう。よろしくお祈りします。

【委員長】 ではお願いします。

【委員】 学習ボランティアは大変大事だと思います。アメリカのカトリーナ台風以降、災害ボランティアで、地域性に根ざしたボランティアというのは多様な地域住民に配慮しなければいけないということで、先ほどおっしゃったセクハラのような話を含めて綿密なマニュアルは幾つかの災害ボランティアではでき上がりつつありますので、ぜひそういったものを参考にさせていただきたいと思っております。本当に細かいマニュアルが一応、災害ボランティアの世界ではでき始めていますので、ぜひともそういうことを参考にさせて、ジェンダーの問題であるとか、あるいは身体、あるいは精神的な障害者に対してどう立ち合うかということをもっと養成していただくようお願いしたいと思っております。

【こども応援丸】 貴重なご意見ありがとうございます。ぜひ、いろいろな子供たちの幸せのために勉強させていただきたいと思っております。ありがとうございます。

【学校教育指導課】 では、担当課として。とある中学校で、スチューデントファーストという言葉を使って学校経営をしているのですが、子供たちが第一、自分でもうちょっと勉強がうまくいったらいいのになと思ってお子さんたちの支援ということで取り組んでいるということを見ると、間口を広げて子供たちの集まりが多くなったというのは、それだけニーズに応えていると。

学校のほうでは、そのお子さんたちが参加しやすい環境をできるだけつくっていかうと思って丁寧に取り組んできていただけたら、ありがたいなと思います。以上です。

【委員長】 ありがとうございます。それでは、これで終了させていただきます。どうもありがとうございます。

【事務局】 ありがとうございます。以上で、予定しておりました8事業のプレゼンテーションが終了いたしました。本日いただきましたプレゼンテーションを受けまして、12月末を目途に事業の評価結果について通知で連絡させていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、閉会に際しまして大江委員長よりご挨拶申し上げます。

【大江委員長】 きょう、午前中で新しい提案が3つ、それから、継続して行うものが5つということで8つ、前半のほうは新しいご提案、後半のほうは実績とご提案ということでお話を伺いました。全般にさまざまな対象の人々、市民、それから領域というものが含まれていて、非常に多様なものがある、今回、いつもそうですけれども、聞いていて非常に興味深いものだったと、非常に充実した時間を過ごすことができたと感じております。そして、協働型も非常にいろいろなタイプがあって、そういうタイプごとに、例えば、1つだけ例を挙げるのは何なのですが、私がよく知っていることもありまして、ハマミーナというところは大和リースというところが主体で、民間のこういうNPOを支えるという非常に珍しいタイプの市民活動の形ができてきているところで、その主体が行政と組んでこの地域のセンターの魅力を上げていかうという非常に新しい形です。それから、非常に予算が大きいのですが、先ほど途中でご説明がありましたように、今までシルバー人材センターに出していたものがほぼそのまま変わっているということで、ここに新しい形で行政進出があるわけではない、ある種、効率的な面で見ても質的な面で見ても恐らく、前の方が悪かったというわけではないのですが、より市民に対して有益なサービスが行われるような形の協働になっているのではないかと思います。最後の発表も同じように、とても感動して聞いていたというのもあるのですが、そういう形ができるということについて市民提案型で進んできたということ。いろいろな気づきやヒントがありましたし、また、こういうことをどうやって地域的にも広げていくかという、新しいテーマ、次のテーマも考えなければいけないなと思って聞いておりました。

ということで、感想でございますけれども、ますますこういう形で市民、行政ともにどこに協働の必要な部分があるのかとお互いに探しながら、そして、実際に試みて、それをもとにして次のものを見つけていくということが進んでいくといいなと思った次第です。簡単ではありますが、講評ではないのですが感想ということで、お話しさせていただきました。どうも、ご協力ありがとうございました。

【事務局】 ありがとうございます。

以上をもちまして、平成30年度実施協働推進事業公開プレゼンテーションを閉会します。

なお、前半、ジェイコムさんが撮影をしておりましたけれども、この模様は12月5日火曜日のデイリーニュース湘南版18時から放映されるかもしれないということでございましたのでアナウンスさせていただきます。

本日は大変ありがとうございました。

委員長署名 大江 守之

委員署名 北川 哲也